第1章　京丹後市の概要

1. 自然的・地理的環境

1－1. 京丹後市の位置・面積、自然的地理的特徴

京丹後市は、京都市から直線距離で約 90 km、京都府の最北端に位置します。北は日本海に接し、東から南にかけては伊根町、宮津市、与謝野町に、南西は兵庫県豊岡市に接しています。市域は、東西約 35 km、南北約 30 km、面積 501.85 ㎢あり、日本海に突き出た丹後半島の大部分を占めます。

市域の４割を占める山地には、北近畿最大級のブナ林など緑豊かな風景が広がり、標高 400～600m の山々から流れる竹野川などの流域に盆地が形成されています。海岸線は、断崖絶壁と砂浜が織り成すコントラストが特徴で、大半が山陰海岸国立公園と丹後天橋立大江山国定公園に指定されています。特に経ヶ岬から丹後松島、屏風岩、立岩へと続く海岸景観、鳴き砂の浜で国の天然記念物及び名勝に指定されている琴引浜、北近畿一のロングビーチで約８kmも続く小天橋から浜詰海岸や久美浜湾などが特に美しく有名です。これら海岸線を中心とした地形、地質は、数々の激しい地殻変動や火山活動、海食によって生じた奇岩・怪岩・洞窟を形成しており、丹後半島の特異性を示しています。半島の大部分は、日本海の成立から現在まで、大地の成り立ちやそこに暮らす人々のくらしの歴史を体感できる地域として、平成 22 年（2010）10 月に、「山陰海岸ジオパーク」が世界ジオパークに認定され、平成 26 年（2014）、31 年（2019）には、ユネスコの正式事業となった世界ジオパークに再認定されています。

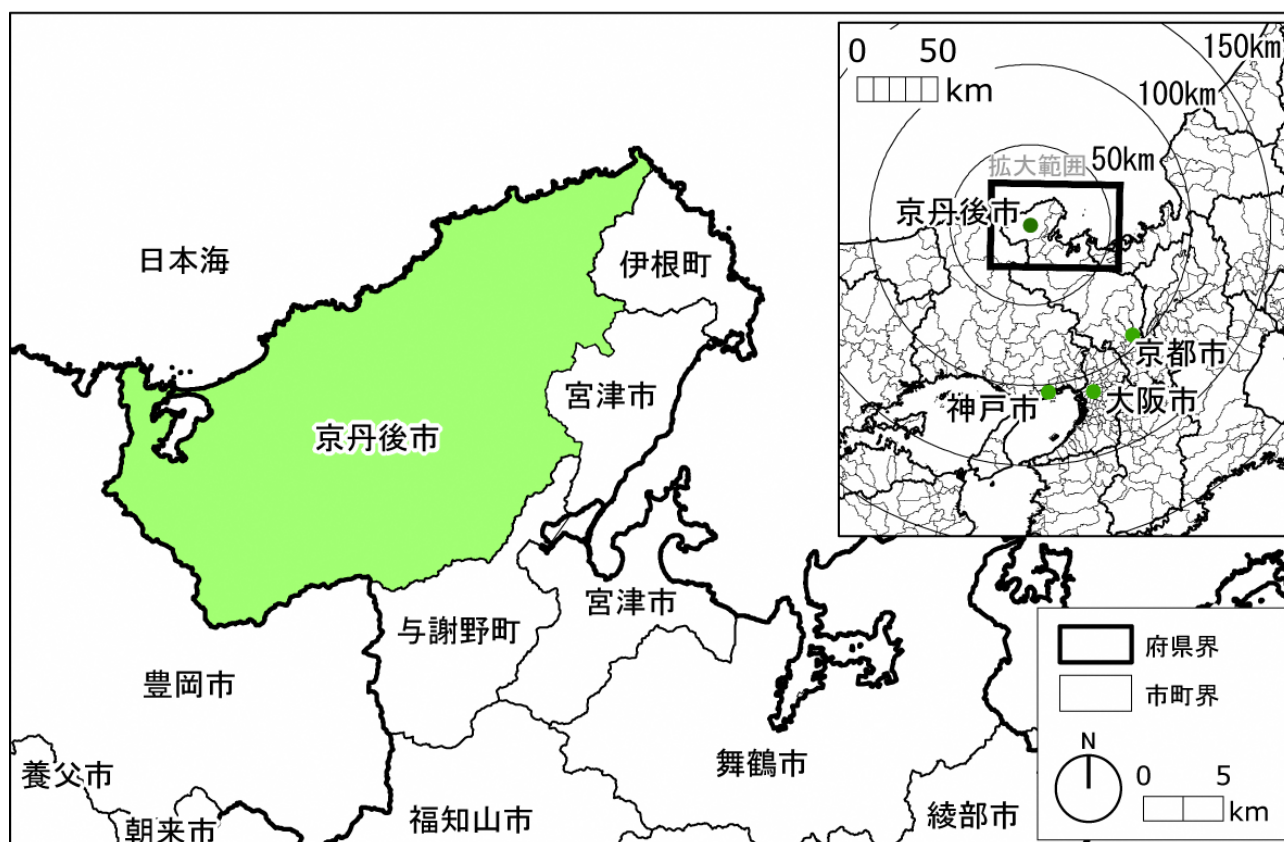



図1-1　広域位置図

資料：基盤地図情報 25000〔京都府・兵庫県〕より作成

1－2. 地名・地区区分

丹後国は「たにわのみちのしりのくに」と呼ばれ、和銅６年（713）に加佐郡、与謝郡、丹波郡、竹野郡、熊野郡の五郡が丹波国から分かれ、成立しました。分国以前の丹波国は、現在の京都府亀岡市以北全域と兵庫県氷上郡、多紀郡を範囲とする広大な国であり、その中心は丹波（京丹後市峰山町）にあったとされています。飛鳥、奈良時代に都が置かれた藤原宮、平城宮から出土した荷札木簡、正倉院宝物の「絁」、平安時代前期に編さんされた『和名類聚抄』などには、現在の大字地名が郷名として記されています。室町時代に入ると、長禄３年（1459）の「丹後国諸庄郷保惣田数帳目録」や天文７年（1538）の「丹後国御檀家帳」には、さらに多くの大字地名が記されています。その後、江戸時代には村の領域が完成し、現在の区の大部分はこの領域を引き継いでいます（図 1-2、1-3）。

江戸時代の丹後国は、当初、全域を宮津藩が支配していましたが、元和８年（1622）に宮津、田辺、峯山（峰山）の三藩に分割されました。その後、藩主の入れ替わりに際して江戸幕府の直轄領（天領）が加わるようになり、享保20 年（1735）には天領支配の拠点として久美浜代官所が置かれました。明治４年（1871）の廃藩置県で、丹後は宮津・舞鶴・峰山・久美浜の４県となりました。このうち久美浜県は、久美浜代官所の管轄であった丹後、丹波、但馬（兵庫県北部）、播磨（兵庫県南部）、美作（岡山県）の５か国にまたがる広域なものでした。同年 11 月、丹後、但馬および丹波天田、氷上、多紀の３郡は豊岡県となり、さらに明治９年（1876）には、豊岡県が廃止され、丹後、丹波は京都府に編入されました。

明治 22 年（1889）の町村制施行では、単独移行した一部の町村を除き、町村合併が行われました。この明治期の町村の単位は小学校の設置単位でもあり、現在も地域のまとまりとして機能しています。

戦後、昭和 28 年（1953）には町村合併促進法が制定され、その前後には昭和の合併が進みました。昭和 25 年（1950）に網野町の合併、昭和 26 年（1951）の大宮町の合併、昭和 30 年（1955）の峰山町、丹後町、弥栄町、久美浜町の合併が行われ、丹後３郡は峰山町、大宮町、網野町、丹後町、弥栄町、久美浜町の６町となりました。さらに平成 16 年（2004）4 月 1 日には、６町が対等合併し、京丹後市が発足しました。市発足後も、昭和期の町は住所表記に残り、現在も市民局や地域公民館などの枠組みとして機能しています。また地区公民館は、その多くが明治期の町村単位で設置されています。

一方、神社や祭礼行事、民俗行事の基本単位である区は、大部分が江戸時代の村の単位であり、人口規模、面積ともに大小さまざまな規模のものがあります。

以上のように京丹後市は、昭和期の町、明治期の町村、江戸時代の村を引き継いだ区という地域区分があり、それぞれ地域性や歴史の積み重ねがあります。

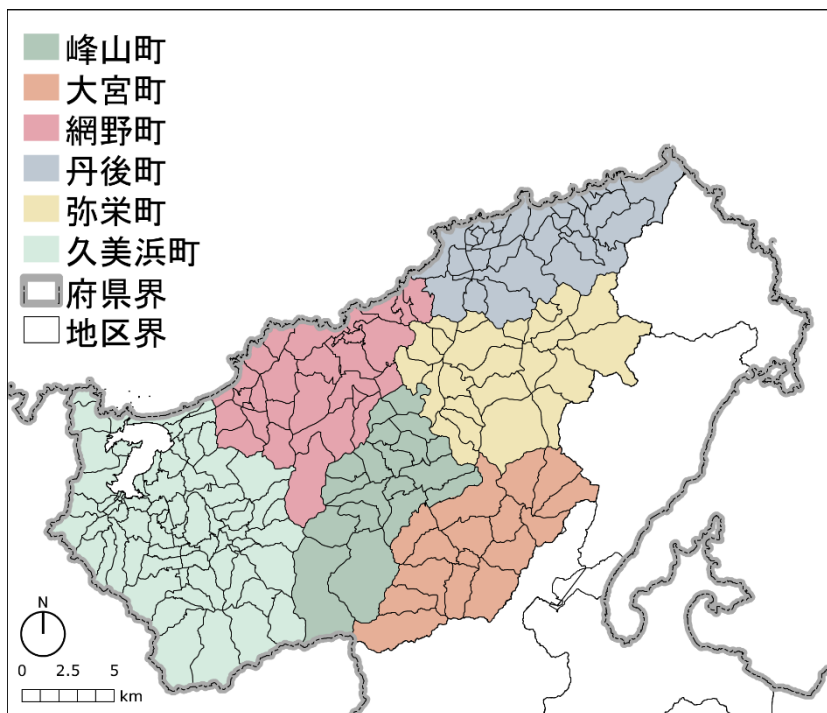



図 1-2 京丹後市発足前の各町域と字界

資料：地図で見る統計（統計 GIS）、国勢調査 2000（境界データ）より作成
字界は国勢調査 2000 によるもの

【明治初年】　【明治 22 年】

円頓寺村
長野村
坂谷村
武藤村
女布村
丸山村
永留村
郷村
下佐濃村
尉ヶ畑村
二俣村
小桑村
佐野村
安養寺村
野中村
上佐濃村
昭和 26.1.1
佐濃村
大井村
三原村
関村
三分村
平田村
壱分村
田村
油池村
坂井村
友重村
品田村
島村
橋爪村
海士村
新谷村
芦原村
谷村
海部村
市野々村
布袋野村
畑村
金谷村
市場村
出角村
須田村
新庄村
川上村
甲山村
神崎村
浦明村
鹿野村
神野村
葛野村
湊宮村
大向村
蒲井村
湊村
久美浜村
久美浜村
久美浜町
神谷村
河梨村
口馬地村
奥馬地村
三谷村
栃谷村
久美谷村
昭和 26.4.1
久美浜町
昭和 30.1.1
久美浜町
昭和 33.5.3
久美浜町
→平成 16.4.1
６町合併により
京丹後市に

丹波村
矢田村
橋木村
石丸村
赤坂村
杉谷村
丹波村
旧杉谷村を編入
峰山吉原町
峰山四軒町
峰山不断町
峰山上町
峰山織元町
峰山室町
峰山呉服町
峰山浪花町
峰山白銀町
峰山泉町
峰山光明寺町
峰山御旅町
峰山堺町
峰山古殿町
峰山町
大正 7.7.1
昭和 30.1.1
峰山町
昭和 31.9.30
峰山町
→平成 16.4.1
６町合併により
京丹後市に
旧安村の一部を編入
安村
西山村
小西村
菅村
新治村
吉原村
新町村
内記村
荒山村
新山村
五箇村
鱒留村
二箇村
久次村
五箇村
長岡村
善王寺村
長善村
旧長岡村を編入
旧善王寺村を編入

口大野村
奥大野村
大野村
明治 25.3.5
口大野村
奥大野村
下常吉村
上常吉村
常吉村
谷内村
三坂村
三重村
森本村
三重村
周枳村
周枳村
河辺村
河辺村
延利村
明田村
久住村
五十河村
五十河村
昭和 26.4.1
大宮町
昭和 31.7.1
昭和 31.9.30
大宮町
→平成 16.4.1
６町合併により
京丹後市に

図1-3　市域の変遷

（『京都府市町村合併史』1968 年より作成）

1－3. 自然環境の特性

(1)地形・地質

【概観】

丹後半島は、中国山地から丹波高地へ連続する山地の北縁部に位置し、北東―南西方向の断層によりわかれた丹後地塊を形づくっています。この地塊は、東西約 40 km、南北約 20 kmの長方形ブロックであり、京丹後市はこの中におさまります。日本海に面した北部は、東の経ヶ岬から西の久美浜湾まで海岸段丘や砂浜など変化に富んだ海岸線を形づくっています。市域の南部は、高度 500～600mの磯砂山、高竜寺ヶ岳、法沢山などの山が連なっており、北に向かって高度が徐々に低くなります。市域の東部は、おもに固い火山岩からなる高度 500～700mの高原状地形であり、宇川などの河川が深い浸食地形をつくっています。これに対して市域の西部は、竹野川および佐濃谷川・川上谷川の両流域に幅広い低地がひらけ、おもに風化した花崗岩からなる高度 100～200mの比較的低く平らな丘陵が広く発達しています。また久次岳および河梨峠と三原峠を結ぶ二つの南北方向の山地が両流域を分けています。このような東西２地区の対照的な地形的特徴は、東部が活断層による断層ブロックとして、西部より新しく隆起したことを示しています。また、本市域では地熱の影響で温泉が噴出しています。

【平野の地形】

市域で最も大きな平野を形成しているのは竹野川流域です。竹野川は、大宮町五十河付近を源流とし、丹後町竹野で日本海に注ぐ全長 27.6km の丹後半島最大の河川です。周辺の山地は、風化が進んだ花崗岩からなるため、風化により粒状化した砂礫が下流に運ばれます。そのため竹野川流域には、砂礫質で水分を吸収する力が大きい土壌のため、水田に利用されにくい扇状地が多く分布します。扇状地の末端部は、湧水帯ができる場合が多いため、集落が形成されやすくなっています。

また竹野川沿いの大宮町三重から下流部及び支流の鱒留川流域では、河岸段丘が発達しています。河岸段丘は高位、中位、低位があり、洪水時にも冠水することが少ないため、古くから集落が形成されました。低位面は、中流部の大宮町周枳や河辺、峰山町新町・新治周辺に広く発達しています。

一方、佐濃谷川・川上谷川流域は、河岸段丘地形が少なく、沖積低地が広がります。沖積低地の中で河川とは段差があって冠水しにくい場所には、集落が形成されています。

【山地の地形】

市域の東部は高原状の地形を呈し、標高 600～700mの山頂が並んでいます。最高峰は五十河北方の高山（宮津市、702m）で、ここから北にかけて高尾山（620.2m）、金剛童子山（613.4m）、太鼓山（683.1m）などが続きます。

市域を流れる河川の多くは、南部に分水嶺があるため、南から北に流れています。太鼓山付近を源流とする宇川は、上流部で急斜面を伴うＶ字谷をつくり、いくつもの支流と合流して山地内を北流します。弥栄町霰、野中などの集落付近では、狭長な谷底平野をいったん形成しますが、弥栄町田中から下流の丹後町鞍内にかけては、山地内を再び蛇行しながらＶ字谷を形成します。こうした河川の浸食によって、落差約 20mの味土野大滝など特徴的な景観が形成されています。

丹後半島の山地には、数多くの地すべり地形が見られます。その分布には地域差があり、市域の西半部、花崗岩類の分布域にはほとんど見られません。地すべり地形の多くは、市域の東半部、高度 500～700mの高原状地形を形づくる火山岩中に見られ、特に依遅ヶ尾山の周辺に集中します。地すべり地形は、粘土層をすべり面とし、地下水の影響を受けてできあがった場合が多く、山地であっても湧水が豊

富なため、集落や棚田などに利用されています。

【海岸の地形】

市域北部の海岸沿いには、海岸段丘が発達しています。段丘面は、下位、中位、上位に大きく分類されますが、この中で最も連続性が見られるのは中位面で、最終間氷期（約 13 万年前）の海進期にできあがったものです。特に丹後町袖志から中浜にかけては幅が広く、厚さ 10m以上の海進期の堆積物がみられます。海岸段丘の景観は、段丘上の水田と日本海のコントラストが美しく、印象深いものです。

海岸砂丘は、海岸の砂が風によって移動・堆積して形成された高まりで、市域では久美浜低地帯と網野峰山低地帯の海岸部などでみられます。丹後砂丘（久美浜砂丘）は、小天橋砂州の先端から木津川河口付近まで広がる府下最大のもので、東西６km、幅１km、面積約 590ha の規模です。現在、砂丘地では、飛砂防止のためにクロマツやニセアカシア等が植林されており、見た目には砂丘地とわからない場合も多いです。

このほか市域には、久美浜湾、離湖など、砂州や砂丘等により外海と切り離されて形成されたラグーン（潟湖・海跡湖）が見られます。久美浜湾は、約 40 万年前までにその骨格が形成されました。約 13 万年前には湾奥の位置まで海域が広がりましたが、約５万年前の最終氷期には海面が大きく低下しました。約６千年前の縄文海進期には、海面下に小天橋砂州が形づくられ、その後、さらに発達した砂州が陸地となり、現在の久美浜湾ができあがりました。

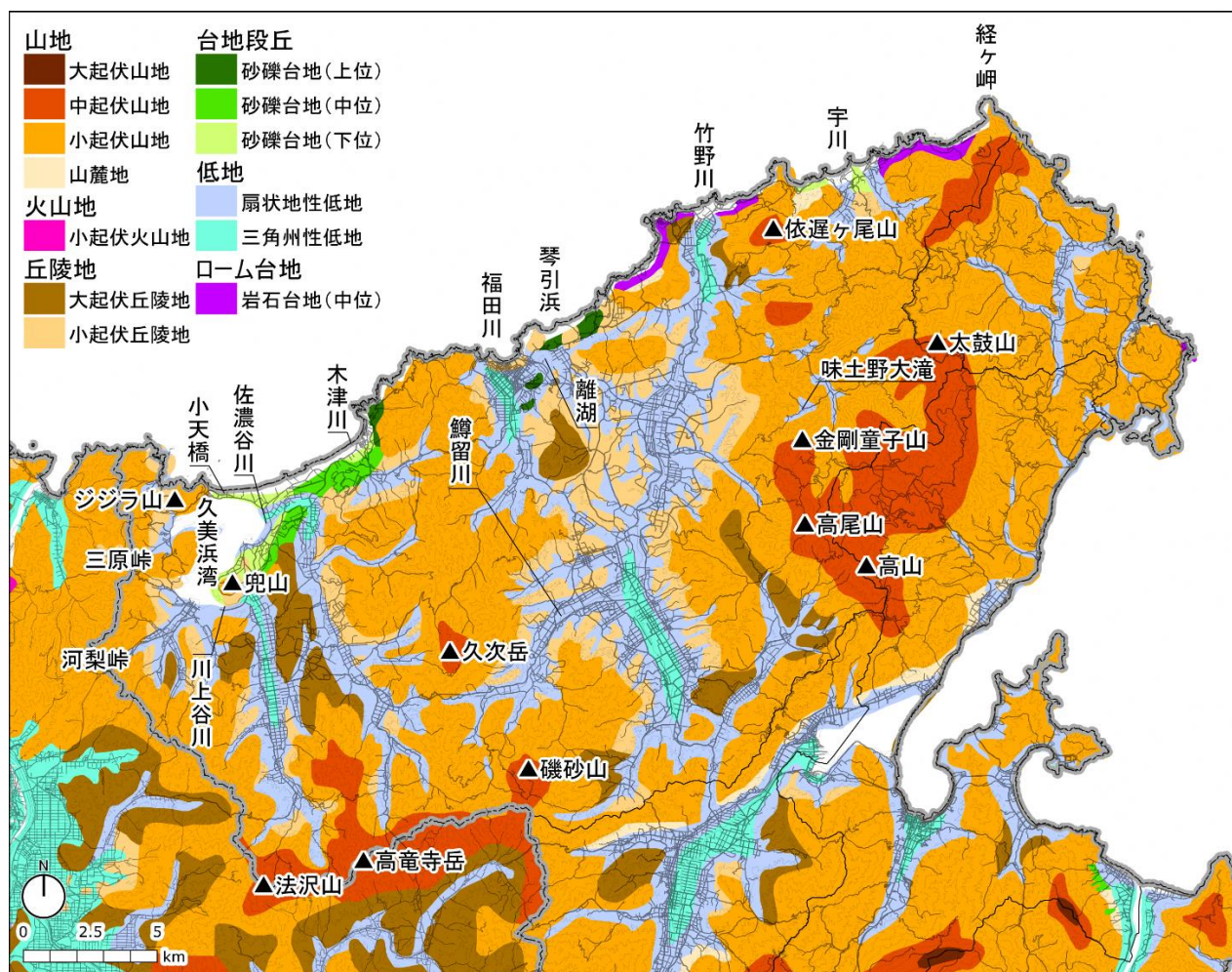



図 1-4　地形区分図

資料：20 万分の１土地分類基本調査（地形区分）より作成

【地質】

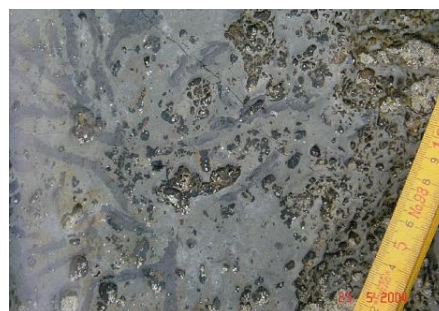
丹後半島には、日本列島ができる前後の時代の岩石や地質が広くみられます。市域の約半分を占め、特に西部の内陸部によくみられる花崗岩は、およそ 5,000～6,000 万年前のユーラシア大陸の地下で、マグマがゆっくり冷えて固まった岩石です。これは海岸の白砂のもとになる石英・長石や砂鉄の原料である磁鉄鉱などの鉱物からなり、風化すると崩れやすいマサ土になります。このように風化した花崗岩地帯は土木工事が容易であり、集落に近い花崗岩の丘陵では、国営農地開発がなされています。また花崗岩に含まれる磁鉄鉱は、風化により砂鉄として取り出すことができます。日本古来の製鉄であるたたら製鉄は、この砂鉄を木炭で高温にした炉で溶かして鉄鉱を取り出す技術です。市域には古墳時代後期および奈良時代の製鉄遺跡である遠處遺跡（弥栄町木橋）、江戸時代に操業したと推定されるたたら製鉄跡（久美浜町奥山）などの製鉄遺跡が残っています。

一方、半島東部、スイス村のある太鼓山周辺などの山間部には、およそ 2,000 万年前にユーラシア大陸の縁で起こった噴火で流れ出た安山岩、玄武岩がみられます。同じ時代の玄武岩質安山岩は、甲坂不動尊天長の滝（久美浜町甲坂）や神谷神社の磐座（久美浜町新町）付近に点在します。

さらに、東部の海岸部には、1,500 万年前、日本列島ができたころの噴火で流れ出た溶岩が固まった安山岩や流紋岩、火砕流堆積物が堆積した凝灰岩がみられます。竹野川河口域にある安山岩でできた立岩と屏風岩が代表的なもので、どちらにも溶岩が冷え固まるときにできた柱状節理がみられます。また流紋岩の溶岩は流れにくいため、噴火時にはドーム状の火山を作ります。久美浜湾岸の兜山やジジラ山等は、噴火したドーム状火山の残骸とされています。1,500 万年前にできあがった日本海の海底に堆積した地層は、泥岩・砂岩・礫岩として、丹後半島の各地でみられます。鳴き砂で知られる国の名勝、天然記念物の琴引浜では、砂浜の下に硬い岩石が見え隠れしています。これは、火山灰が海水と反応して緑色となった凝灰岩の一種で、グリーンタフとも呼ばれています。また泥岩の地層の表面には、様々な筋状の模様が見えますが、これは生痕化石といって、海底で巣穴を掘り、這いまわった生物の痕跡です。同じく鳴き砂で知られる丹後町の砂方浜では、砂岩層の下の泥岩層から、海の生物の化石がみつかっています。

花崗岩起源の真砂

久美浜町箱石浜の砂鉄

甲坂不動尊天長の滝

琴引浜　生痕化石

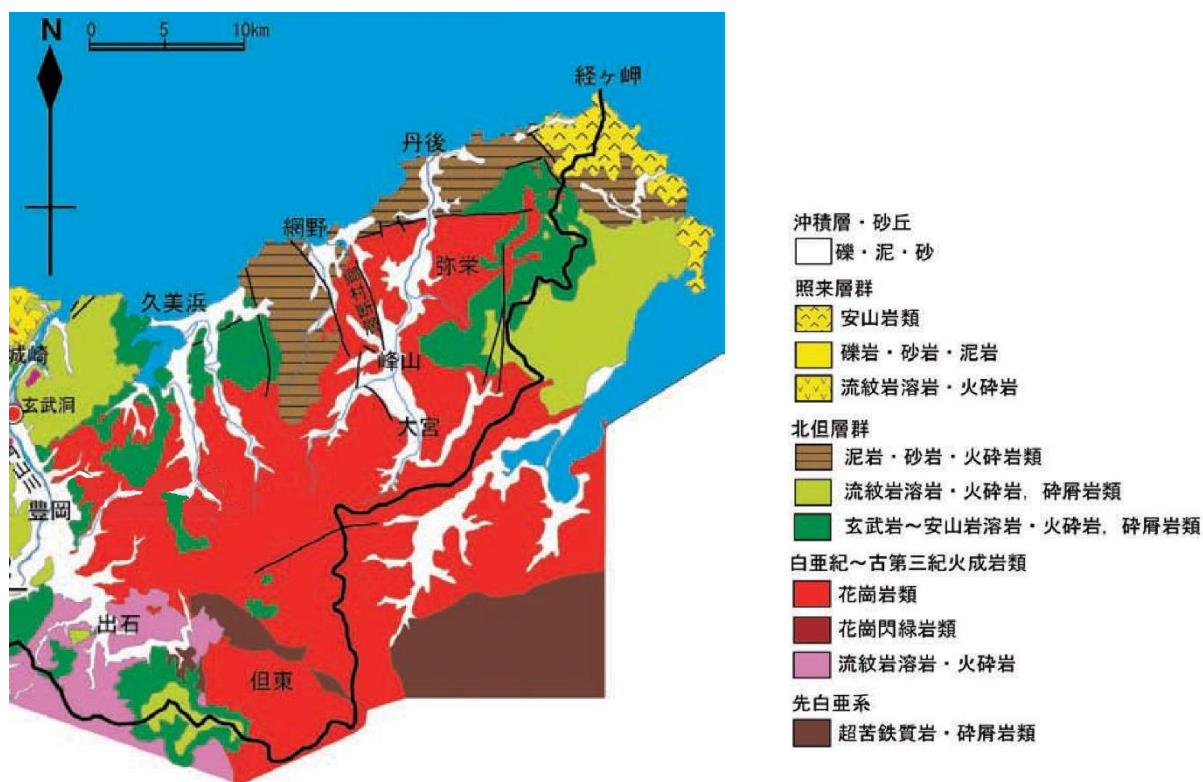



図 1-5　地質図

資料：先山徹・松原典孝・三田村宗樹（2012）山陰海岸におけるジオパーク活動―大地と暮らしのかかわり―、地質学雑誌第 118 巻、4 頁、図3山陰海岸ジオパークの地質図より本市域を抜粋、一部加工

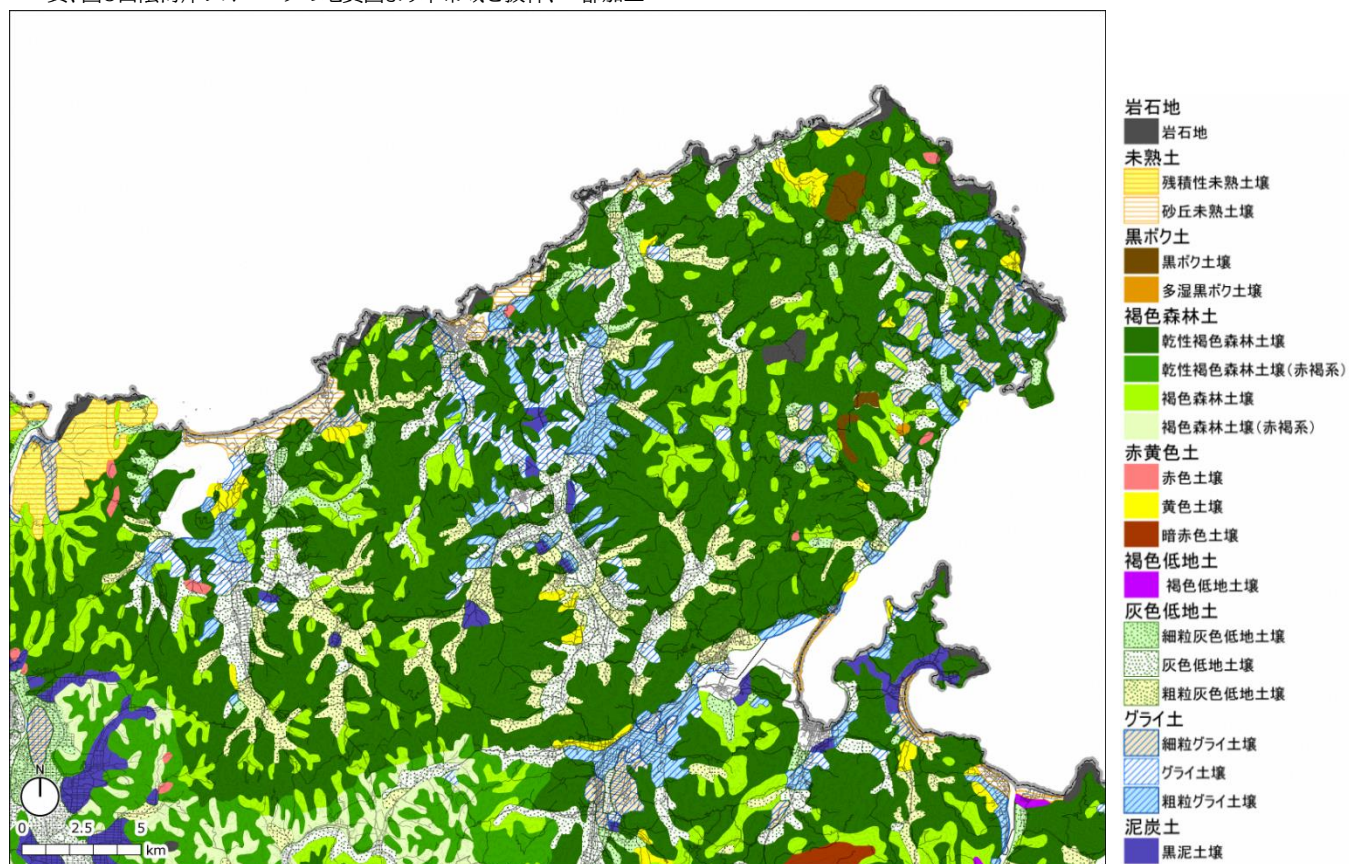



図 1-6　土壌分類図

資料：20 万分の 1 土地分類基本調査（土壌分類）より作成

(2)水系・水利

本市の主な水系は、東から順に、宇川、竹野川、福田川、佐濃谷川、川上谷川です。これらは約８km の間隔に並んで、南から北に流れ、日本海にそそぐという特徴があります。

図 1-7　主な河川と流域区分図

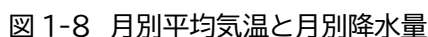
資料:国土数値情報・流域メッシュ(平成 21 年)より作成

(3)気候

京都府北部に当たる丹後半島は、夏の日照時間が長く、冬が短い日本海気候の特徴が顕著であり、冬の降雪は多く、比較的温暖な北陸・山陰型に属しています。この気候区は、冬に北西からの湿った季節風の影響で曇天が多く、多湿で降水・降雪量も多くなるという特徴があります。「弁当忘れても傘忘れるな」という言葉は、冬の「うらにし」気候の特徴を言い表しています。また冬季に西高東低の気圧配置になると、大陸から冷たい湿った空気が日本海に流れ込み、温暖な対馬海流の水蒸気を吸収して湿った空気となり、日本海に到来します。これが山地にぶつかって、雪雲が発生し、日本海側に大雪をもたらします。しかし近年はほとんど積雪のない年もあり、その原因としては温暖化現象が考えられます。

令和２年 (2020) 度の間人観測所及び宮津観測所の月平均気温は、最も寒い２月で 6.3～7.4℃、最も暑い８月で 28.1～28.2℃となっています。一方、都市部で頻出するヒートアイランド現象は見られません。

図 1-8　月別平均気温と月別降水量

※間人観測所(京丹後市丹後町間人小字新ヶ皿)、峰山観測所(京丹後市峰山町荒山)、宮津観測所(宮津市字上司)における令和2年度の計測値(資料:気象庁)より作成

(4)生態系

自然豊かな市域には、多様な植生が見られます。日本海に面している沿岸部の砂浜や岸壁地にはクロマツが広く分布しています。また人手のあまり入っていない海岸に近い丘陵斜面では、スダジイ、タブノキなどが優占する常緑広葉樹林が見られます。また山地のほとんどはアカマツ、コナラ、シデ類等の二次林でしたが、松枯れによってアカマツが減少し、常緑広葉樹のスダジイの勢力が強くなっています。集落周辺では、かつては農家によりモウソウチクなどの竹林が利用されていました。しかし現在は十分な管理がなされなくなり、繁殖力の強さから、周辺の杉人工林や広葉樹林に侵入し分布を拡大しています。一方、標高の高い 500m以上の山地には、ミズナラなどの冷温帯性の落葉広葉樹林が広がっています。京丹後市と宮津市の境界域には、ブナを中心とした冷温帯落葉広葉樹林が分布し、内山ブナ林として知られています。ほかには、兵庫県との境界に近い高竜寺ヶ岳にも分布しており、近畿地方では残り少ない貴重な森林です。また丹後町乗原などの水田下には、スギの埋没林が見られます。かつては広い範囲でスギの自然林が分布しましたが、現在はまったく残っていません。

市内の名勝・天然記念物としては、郷村断層（国指定天然記念物）や、宗雲寺庭園（京都府指定名勝）等の 19 件が指定されているほか、文化財環境保全地区として、竹野神社文化財環境保全地区等の５件が決定されています（次頁表）。

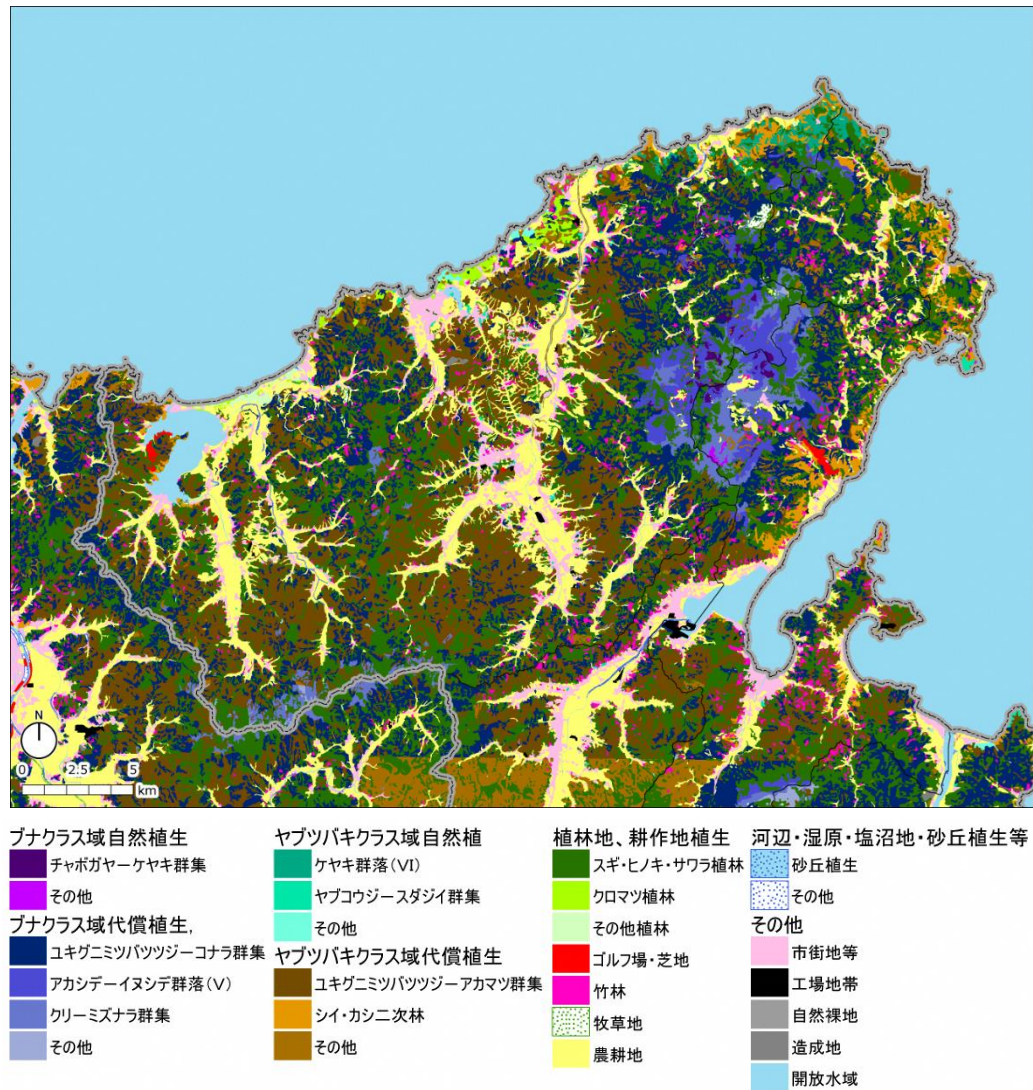



図 1-9 植生区分図

資料：自然環境保全基礎調査・第6・7回植生調査より作成

表 1-1 名勝・天然記念物一覧

番号	指定別	区分	名称	員数等	所在地	指定登録年月日	時代
1	国・指	天	郷村断層	257 ㎡	網野町郷小字小池47-1、網野町郷小字樋口 680、網野町生野内柱ケ谷 186-2	昭和 4 年 12 月 17 日	昭和 2 年(1927)丹後震災に伴うもの
2	国・指	名・天	琴引浜	-	網野町掛津、遊	平成 19 年 7 月 26 日	-
3	府・指	名	宗雲寺庭園	383 ㎡	久美浜町新町	昭和 59 年 4 月 14 日	江戸時代後期 享和元年(1801)前後か
4	府・指	天	アベサンショウウオ基準産地	-	大宮町善王寺	平成 5 年 4 月 9 日	-
5	府・指	天・名	立岩	-	丹後町間人	平成 30 年 3 月 23 日	-
6	府・登 市・指	天	アベサンショウウオ	-	-	昭和 59 年 4 月 14 日 平成 13 年 3 月 27 日	
7	市・指	名・天	五色浜周辺	-	網野町塩江	昭和 51 年 3 月 1 日	-
8	市・指	天	若宮神社のスダジイ	1 本	大宮町奥大野	平成 13 年 3 月 27 日	-
9	市・指	天	内山の大ブナ	1 本	大宮町五十河	平成 13 年 3 月 27 日	-
10	市・指	天	平海岸海浜植物群自生地	約 1 万㎡	丹後町平	昭和 61 年 6 月 18 日	-
11	市・指	天	宇川流域天然鮎生息地	-	丹後町内小脇～平	昭和 61 年 6 月 18 日	-
12	市・指	天	八幡神社ムクロジ	1 本	峰山町鱒留	平成 20 年 7 月 8 日	-
13	市・指	天	生王部神社スダジイ	1 本	網野町生野内	平成 20 年 7 月 8 日	-
14	市・指	天	迎接寺跡シイ(ツブラジイ)	1 本	久美浜町湊宮	平成 20 年 7 月 8 日	-
15	市・指	天	霧の宮神社八岐杉	1 本	大宮町五十河	平成 20 年 7 月 8 日	-
16	市・指	天	峰山陣屋跡エノキ	1 本	峰山町吉原	平成 20 年 7 月 8 日	-
17	市・指	天	雲松寺跡タラヨウ	1 本	久美浜町小桑	平成 20 年 7 月 8 日	-
18	市・指	名	霧降りの滝	-	網野町新庄	平成 27 年 5 月 7 日	-
19	市・指	名	無明の滝	-	久美浜町市野々	平成 27 年 5 月 7 日	-

天:天然記念物、名:名勝 ※令和 4 年 4 月 1 日現在

表 1-2 文化財環境保全地区

番号	指定別	区分	名称	所在地	決定年月日	時代
1	府	環	竹野神社文化財環境保全地区	丹後町竹野	昭和 60 年 5 月 15 日	-
2	府	環	神谷神社文化財環境保全地区	久美浜町新町	昭和 60 年 5 月 15 日	-
3	府	環	多久神社文化財環境保全地区	峰山町丹波・矢田	平成 16 年 3 月 19 日	-
4	市	環	三嶋田神社環境保全地区	久美浜町金谷	平成 3 年 7 月 15 日	-
5	市	環	甲坂不動尊環境保全地区	久美浜町栃谷	平成 3 年 7 月 15 日	不動尊磨崖仏:永禄 2(1559)年銘

宗雲寺庭園

霧降りの滝

若宮神社のスダジイ

コウノトリの親子

アベサンショウウオの成体(アベサンショウウオを守る会提供)

動物の分布をみると、豊かな市域の自然環境を反映し、種類が豊富です。一方、学術的に貴重なため天然記念物に指定されている種や、野生下で生息数が少ないため、絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律(種の保存法)で「国内希少野生動植物種」に指定されている種が生息しています。

特別天然記念物のコウノトリは、兵庫県豊岡市が最大の繁殖地です。市域は、豊岡市に隣接し、学術的に見るとその生息圏に含まれます。「京丹後市生物多様性を育む農業推進計画」を進める京丹後市では、日常的にコウノトリが生息し、繁殖期には営巣、孵化、巣立ちが見られます。そのため京丹後市は、IPPM-OWS（コウノトリの個体群管理に関する機関・施設間パネル）によるコウノトリの個体群管理の取り組みに参加しています。

アベサンショウウオは、昭和７年（1932)、中郡長善村（現大宮町善王寺）姫宮神社付近で、小学生が小型サンショウウオの幼生を発見したことが始まりで、新種と認定されました。その後、種は昭和 59 年（1984）に京都府の天然記念物に登録され、新種認定個体が見つかった基準産地は平成５年（1993）に京都府の天然記念物に指定されました。また平成７年（1995）には、環境省（当時は環境庁）の国内希少野生動物種に指定され、その後、基準産地を含む周辺の生息地は、平成 18 年（2006）に善王寺長岡アベサンショウウオ生息地保護区に指定されています。また京都府は、種を京都府絶滅のおそれのある野生生物の保全に関する条例による指定希少野生生物に指定しています。その生息地は極めて限られており、京都府の丹後地域（京丹後市、与謝郡与謝野町）、兵庫県但馬地域、福井県嶺北南部、嶺南東部や石川県加賀西部地域のうちごく狭い範囲です。なお地元のアベサンショウウオを守る会が、生息地保護区内のアベサンショウウオの保護、観察などの活動を行い、見守りを続けています。

(5)景観

【京都府景観資産および京都府文化的景観】

京都府には、地域固有の歴史や文化に裏打ちされた府内各地の身近な景観と、その景観を支えている地域の活動を合わせて登録する京都府景観資産登録制度があります。この制度は、景観資産としての価値を広く共有し、情報発信による地域の魅力向上、地域の景観づくりやまちづくり活動の促進を図ることを目的としています。市内では、「久美浜湾とカキ養殖景観」、「丹後の立岩・屏風岩・丹後松島・経ヶ岬の海岸景観」、「琴引浜の白砂青松と鳴砂」、「城下町に由来する風情ある久美浜の街なみ」の４件が、景観資産として登録されています。また文化財としての景観保護制度では、文化的景観制度があります。京丹後市は景観条例が未制定のため、京都府景観資産に登録されたものの中から、市からの申し出により京都府文化的景観の選定が行われています。市域では「久美浜湾と牡蠣棚」と「京丹後市久美浜湾沿岸の商家建築群と街なみ景観」の２件が京都府文化的景観に選定されています。

久美浜湾と牡蠣の養殖景観

出典:京都府「京都府景観資産」HP

「城下町に由来する風情ある久美浜の街なみ」の指定範囲

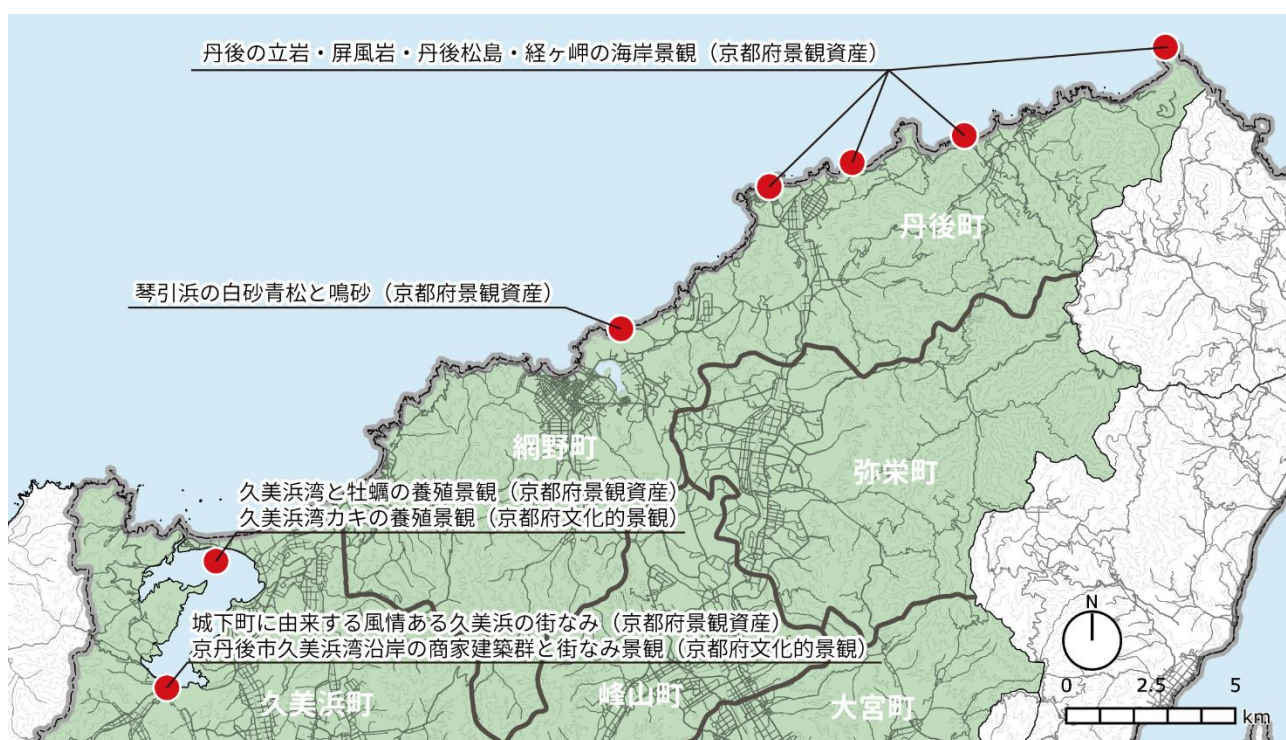



図 1-10　京都府景観資産および文化的景観の分布

【京丹後市住民協定景観形成条例】

本市では、久美浜一区（久美浜町仲町・土居・東本町・西本町・新町・新橋区）において、京丹後市住民協定景観形成条例第 5 条に基づく景観形成住民協定区域を設定しています。この区域内では、色彩、屋根及び庇、外壁などの材料や壁面の位置、窓や出入口など開口部の形状や色彩、階数、1 階の軒高などの景観形成基準を設けており、面積が 200 ㎡を超える開発行為や建築等の行為、工作物の設置等、規則で定める行為などを行う場合は、条例第 6 条に基づく届出が必要な場合があります。

また景観形成区域内において、市民が優れた景観形成を図るための自主的な努力を行おうとする場合、市は技術的援助を行い、又は予算の範囲内において財政的な援助を行うなど、支援に努めるものとしています。

このような地域主体の取り組みが早くから行われたこともあり、久美浜町一区の町並みは、京都府景観資産や京都府文化的景観に選定されています。

久美浜の町並みを構成する建物

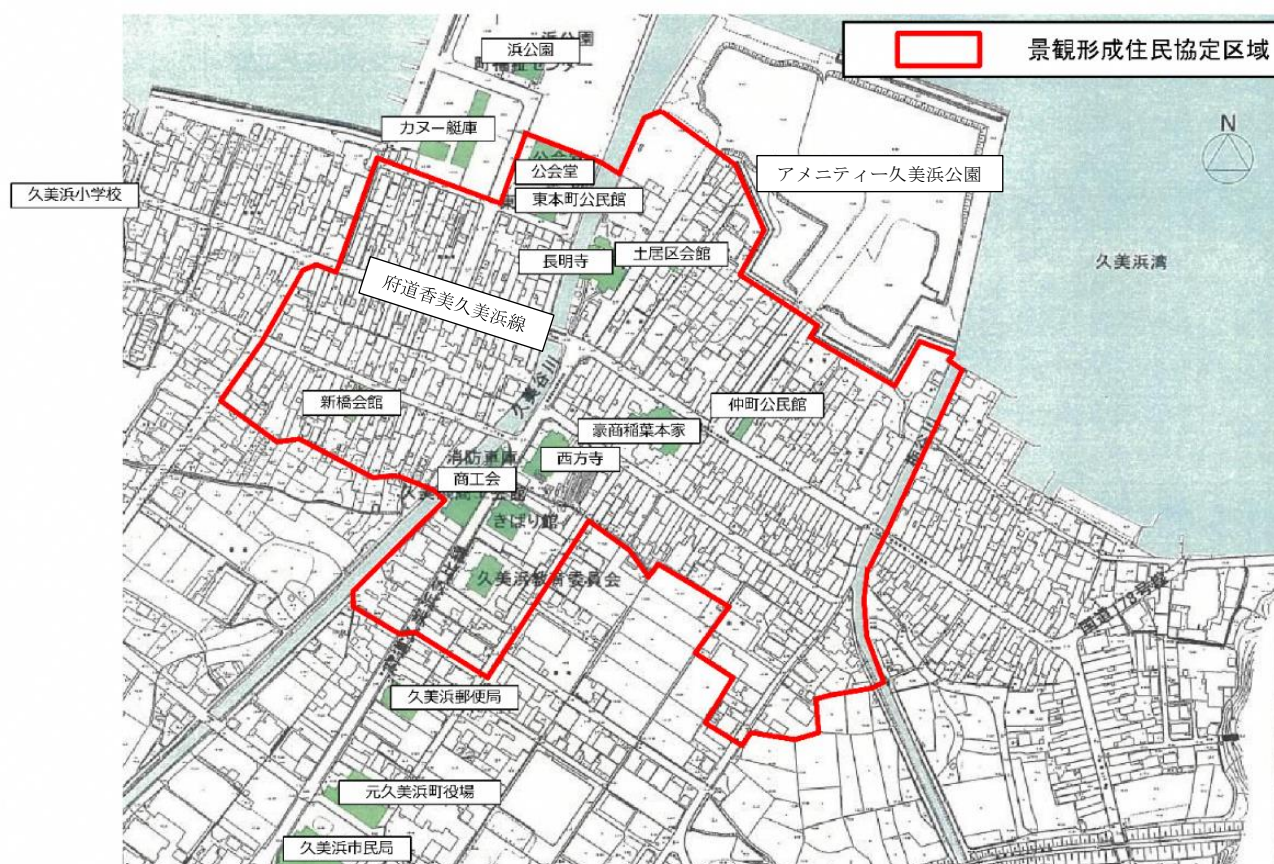



図 1-11 久美浜一区･景観形成住民協定区域　資料：京丹後市建設部資料より作成

2. 社会的状況

2−1. 人口動態

本市の人口推移をみると、昭和 25 年（1950）には 83,001 人でしたが、令和２年（2020）には 50,860 人と減少しています。一方、世帯数（せたいすう）については、昭和 55 年（1980）には 19,009 世帯であり、その後は増加しましたが、平成 17 年（2005）の 20,920 世帯をピークとしてやや減少に転じ、令和２年（2020）では 20,138 世帯となっています。このように人口減少の一方で、世帯数増加が長期間続いたことから、結婚を機に世帯独立（せたいどくりつ）を行う核家族（かくかぞく）が増加したものと推測されます。また、京丹後市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン（令和４年７月改訂）の将来推計人口は、令和 42 年（2060）には、46,021 人と予測しています。年齢区分別の人口を見ると、平成 12 年（2000）では老年人口（ろうねんじんこう）（65 歳以上）の割合が 25.3%ですが、令和２年（2020）には 38.2%と増加しています。一方、同期間での年少人口（ねんしょうじんこう）（0 歳～14 歳）の割合の推移をみると、16.2%（2000）から 11.2%（2020）と減少しています。進学や就職で市外に転出するタイミングに該当する年齢層（15～24 歳）に着目すると、「15～19 歳」では 5.2%（2000）から 3.9%（2020）、「20～24 歳」では 3.1%（2000）から 2.3%（2020）と、いずれも減少しています。年少人口の減少は、学校再配置を進める大きな要因となったほか、子どもを担い手とする行事の休止につながっています。

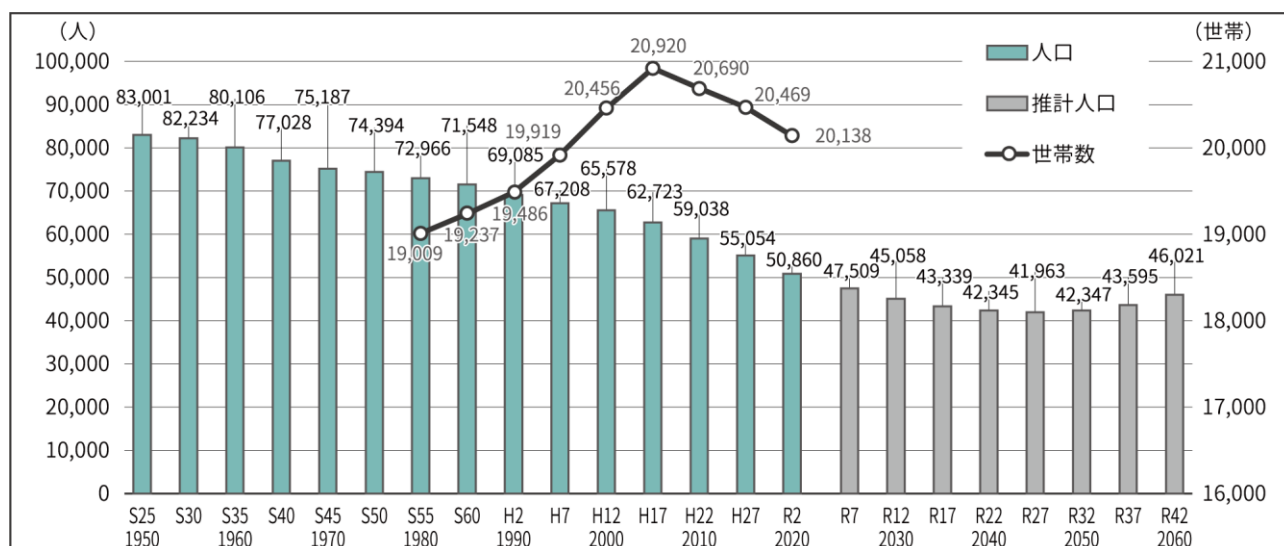



図 1-12　人口･世帯数の推移と将来推計人口

資料：国勢調査、京丹後市まち･ひと･しごと創生人口ビジョン（令和4年7月改定）より作成。
注）人口及び世帯数は各調査年 10 月1日現在の値。平成 12 年（2000）度以前は、該当地域の合計値。

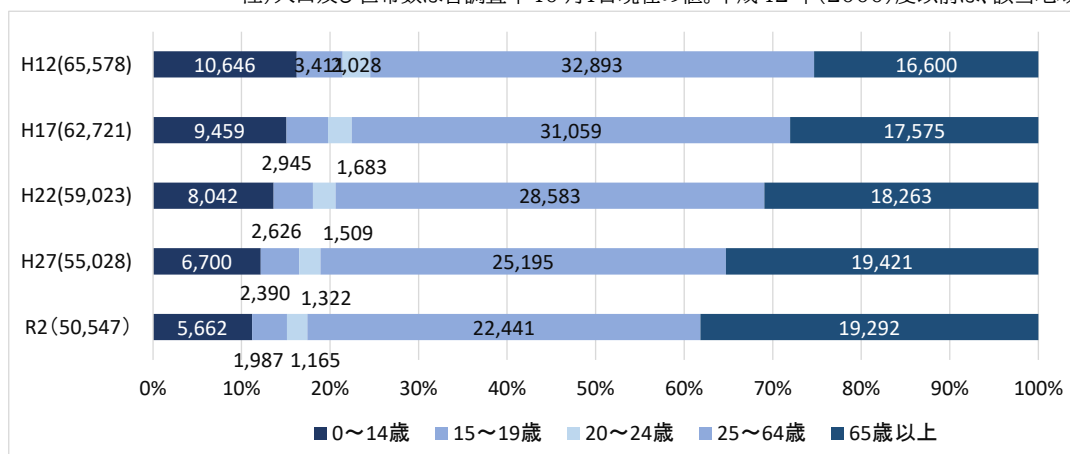



図 1-13　年齢別人口割合の推移

資料：国勢調査より作成。平成 12 年（2000）度は該当地域の合計値。「年齢不詳」を除いて集計。

【人口増減率】

統計区別人口の推移及び増減率をみると、平成 17 年（2005）から平成 27 年（2015）にかけての人口増減率は、弥栄町、久美浜町の山間部で-40％以下と低くなっています。一方で、竹野川流域や福田川流域の平地等では、人口は増加傾向にあります。

増減率のデータからは、市域全域で人口減少が進む一方、通勤、通学、買い物などの日常生活において便利な平地部へと人が移動する傾向が読み取れます。これは、世帯独立に際して、山間地から平地部へ居住地を移す可能性があるともいえます。

人口増減率の差異は、区の人口規模の格差が広がる要因の一つとなっています。

図 1-14 統計区別の人口増減率〈平成 17 年(2005)～平成 27 年(2015)〉

出典：国勢調査、地図で見る統計（統計 GIS）より作成

【老年人口割合の推移】

地域毎に高齢化の進行状況を把握するために、平成 7 年（1995）、平成 17 年（2005）、平成 27 年（2015）の国勢調査による年齢別人口割合を次表に整理すると、どの地域もこの 20 年間で老年人口割合が増加しています。特に平成 27 年（2015）について、老年人口割合が市全体での同割合 35.3％を超えている地域を挙げると、峰山町では峰山（老年人口割合 37.7％）、五箇（36.2％）等３か所、大宮町では五十河（44.0％）、常吉（35.7％）等３か所、網野町では切畑（57.1％）、溝野（52.9％）等 12 か所、丹後町では竹野（46.5％）、下宇川（41.2％）等５か所、弥栄町では弥栄（37.6％）、野間（57.0％）と全域、久美浜町では一区（41.8％）、川上（40.8％）等７か所、となっています。このように、過疎化が進む山間部の集落や漁村地域での、高齢化の進行が顕著になっています。特に弥栄町野間では、既に平成 7 年（1995）の段階で老年人口割合が 42.2％と、他地域に比べて極めて高くなっています。逆に平成 27 年（2015）について、老年人口割合が 30％未満と他地域に比べて比較的少ない地域を挙げると、峰山町では長岡（老年人口割合 26.4％）、新山（新町、荒山 27.1％）、大宮町では口大野（29.6％）、周枳（25.9％）、河辺（27.9％）、善王寺（20.7％）です。これらの地域は、国道 312 号沿いに位置し、ショッピングセンターや大型店舗が立ち並びます。生活面で便利な地域であることから、新たな住宅地が形成されています。

このように市域の老年人口割合には、大きな地域差があることがわかります。

図 1-15 老年人口割合〈平成 27 年(2015)〉

出典：国勢調査、地図で見る統計（統計 GIS）より作成

表 1-3 小地域別の年齢層別人口割合〈平成 7 年(1995)、平成 17 年(2005)、平成 27 年(2015)〉

町	小地域※1	年	人口総数（人）※2	年少人口割合（%）	生産年齢人口割合（%）	老年人口割合（%）※3
峰山町	峰山	H7	4,149	16.5	63.3	20.3
		H17	3,629	14.6	55.9	29.4
		H27	3,103	11.9	50.4	37.7
	吉原	H7	2,790	18.1	63.1	18.8
		H17	2,653	15.8	59.6	24.7
		H27	2,399	14.0	55.2	30.7
	五箇	H7	1,598	19.5	57.3	23.2
		H17	1,414	13.5	57.2	29.3
		H27	1,192	9.9	53.9	36.2
	長岡	H7	949	16.0	59.9	24.1
		H17	1,221	18.3	59.2	22.4
		H27	1,362	18.6	55.0	26.4
	新山	H7	2,690	17.1	65.7	17.2
		H17	2,727	17.8	59.4	22.8
		H27	2,678	15.9	57.0	27.1
	丹波	H7	1,850	18.6	61.6	19.8
		H17	1,614	16.1	56.6	27.3
		H27	1,283	9.5	53.3	37.2
大宮町	口大野	H7	2,317	18.5	62.4	19.1
		H17	2,467	18.2	56.5	25.3
		H27	2,253	14.1	56.3	29.6
	奥大野	H7	980	16.7	62.3	20.9
		H17	959	16.2	59.6	24.2
		H27	813	11.9	56.2	31.9
	常吉	H7	591	14.2	58.5	27.2
		H17	510	12.4	55.9	31.8
		H27	407	10.1	51.8	38.1
	三重	H7	1,220	18.4	58.2	23.4
		H17	1,074	12.7	56.6	30.7
		H27	996	10.7	53.5	35.7
	五十河	H7	705	12.3	58.0	29.6
		H17	632	10.1	52.2	37.7
		H27	504	7.9	48.0	44.0
	周枳	H7	1,721	18.2	62.8	18.9
		H17	1,781	16.9	61.7	21.4
		H27	1,879	14.5	59.6	25.9
	河辺	H7	1,673	19.6	62.9	17.5
		H17	1,703	17.1	62.5	20.3
		H27	1,639	15.7	56.3	27.9
	善王寺	H7	1,209	19.9	64.8	15.2
		H17	1,631	22.9	63.5	13.7
		H27	1,620	18.1	61.2	20.7
網野町	網野	H7	5,019	16.6	64.4	19.0
		H17	4,794	14.9	60.4	24.6
		H27	4,138	13.4	51.6	35.0
	浅茂川	H7	2,444	17.7	62.4	19.9
		H17	2,187	15.5	58.2	26.3
		H27	1,764	11.6	53.5	34.9
	下岡	H7	939	18.4	63.0	18.5
		H17	746	17.0	56.8	26.1
		H27	613	9.1	56.6	34.3
	小浜	H7	870	16.9	62.4	20.7
		H17	870	12.1	53.9	34.0
		H27	798	9.8	39.7	50.5
	島津	H7	1,527	17.4	64.4	18.2
		H17	1,485	15.8	59.3	24.8
		H27	1,281	10.9	53.6	35.5
	仲禅寺	H7	45	24.4	53.3	22.2
		H17	27	11.1	51.9	37.0
		H27	17	0.0	52.9	47.1
	掛津	H7	524	19.7	62.0	18.3
		H17	479	15.4	59.9	24.6
		H27	381	10.0	57.0	33.1
	尾坂	H7	–	–	–	–
		H17	–	–	–	–
		H27	–	–	–	–
	三津	H7	544	17.6	62.5	19.9
		H17	480	13.3	58.1	28.5
		H27	360	4.2	49.4	46.4
	高橋	H7	253	13.4	60.1	26.5
		H17	220	15.9	55.5	28.6
		H27	219	15.5	45.7	38.8
	公庄	H7	53	20.8	60.4	18.9
		H17	48	20.8	47.9	31.3
		H27	35	2.9	51.4	45.7
	郷	H7	597	17.8	58.8	23.5
		H17	509	14.1	57.4	28.5
		H27	387	10.6	54.0	35.4

町	小地域	年	人口総数（人）	年少人口割合（%）	生産年齢人口割合（%）	老年人口割合（%）
網野町（続き）	生野内	H7	158	17.7	63.3	19.0
		H17	143	19.6	54.5	25.9
		H27	104	10.6	56.7	32.7
	切畑	H7	101	23.8	41.6	34.7
		H17	71	5.6	50.7	43.7
		H27	42	0.0	42.9	57.1
	新庄	H7	300	21.3	55.3	23.3
		H17	261	15.7	56.3	28.0
		H27	196	10.7	53.6	35.7
	木津	H7	1,100	15.5	62.8	21.7
		H17	1,116	13.5	50.6	35.8
		H27	963	7.5	47.5	45.1
	日和田	H7	26	53.8	46.2	0.0
		H17	X	X	X	X
		H27	X	X	X	X
	俵野	H7	202	18.8	55.9	25.2
		H17	185	18.9	54.6	26.5
		H27	157	12.7	53.5	33.8
	溝野	H7	23	13.0	47.8	39.1
		H17	25	0.0	56.0	44.0
		H27	17	0.0	47.1	52.9
	浜詰	H7	1,522	18.1	64.3	17.5
		H17	1,355	17.3	58.1	24.6
		H27	1,183	13.7	52.4	33.9
	塩江	H7	286	13.6	66.1	20.3
		H17	235	13.2	60.0	26.8
		H27	181	6.1	53.0	40.9
	磯	H7	163	25.2	57.7	17.2
		H17	123	14.6	58.5	26.8
		H27	94	5.3	62.8	31.9
丹後町	間人	H7	2,794	16.9	57.3	25.8
		H17	2,426	12.5	56.3	31.2
		H27	1,987	11.4	48.6	40.0
	豊栄	H7	1,787	19.3	55.1	25.6
		H17	1,645	14.8	54.3	30.9
		H27	1,442	11.2	49.7	39.2
	竹野	H7	787	14.0	57.8	28.2
		H17	674	11.6	49.1	39.3
		H27	525	7.6	45.9	46.5
	上宇川	H7	686	17.9	58.7	23.3
		H17	593	18.2	52.1	29.7
		H27	421	11.4	48.7	39.9
	下宇川	H7	1,553	17.2	57.5	25.3
		H17	1,207	10.9	56.3	32.9
		H27	941	7.9	50.9	41.2
弥栄町	弥栄	H7	5,819	18.6	59.0	22.5
		H17	5,468	15.7	55.1	29.2
		H27	4,886	11.3	51.1	37.6
	野間	H7	306	10.5	47.4	42.2
		H17	237	11.4	40.5	48.1
		H27	172	5.2	37.8	57.0
久美浜町	一区	H7	2,065	14.7	56.9	28.3
		H17	1,932	13.9	51.7	34.4
		H27	1,647	10.8	47.4	41.8
	二区	H7	1,122	19.0	54.8	26.2
		H17	1,010	14.3	54.9	30.9
		H27	879	10.9	51.6	37.4
	川上	H7	1,578	16.1	56.8	27.1
		H17	1,359	11.2	55.1	33.7
		H27	1,166	9.0	50.2	40.8
	海部	H7	1,318	16.4	54.8	28.8
		H17	1,204	11.5	54.2	34.2
		H27	1,008	11.1	50.4	38.5
	佐濃南	H7	1,152	17.9	52.6	29.5
		H17	1,019	13.8	52.9	33.3
		H27	838	11.2	52.4	36.4
	佐濃北	H7	1,007	18.4	56.8	24.8
		H17	887	11.2	57.2	31.7
		H27	785	9.6	52.9	37.6
	田村	H7	1,188	19.9	54.8	25.3
		H17	1,027	13.5	54.9	31.5
		H27	889	13.9	51.9	34.2
	神野	H7	1,521	18.5	57.3	24.3
		H17	1,403	15.2	58.1	26.7
		H27	1,267	12.7	53.4	33.9
	湊	H7	1,387	15.8	57.7	26.5
		H17	1,256	11.8	52.1	36.1
		H27	1,117	11.5	46.4	42.1
京丹後市全体		**H7**	**67,208**	**17.5**	**60.3**	**22.2**
		H17	**62,723**	**15.1**	**56.9**	**28.0**
		H27	**55,028**	**12.2**	**52.5**	**35.3**

※1：各年次の国勢調査における小地域(町丁･字等別)で集計している。

※2：人口総数は、年齢不詳人口を除く。「×」は秘匿地、「－」はデータなし。

※3：平成 27 年の老年人口割合が、市全体の同割合(35.3%)を超えた箇所に黄色の網掛け。出典：国勢調査より作成

2－2. 教育

【学校再配置】

戦後しばらくは、明治期の町村単位で小学校が運営され、小学校区が広域な場合は分校が設けられました。一方、大宮町域では、昭和 47 年（1972）の大宮第一小学校の設置を皮切りに学校統合が先行しました。京丹後市発足後、本市と教育委員会では、少子化の進展と学校の小規模化が進む中、次代を担っていく子どもたちに、より良い教育環境や教育条件を整え「学校力」を高めるため、平成 22 年（2010）12 月に策定した「京丹後市学校再配置基本計画」に基づいて、地域や PTA との話し合いを持ちながら、学校の適正規模や適正配置を考えた学校再配置に取り組んできました。また、同時に進めてきた子どもたちの育ちと指導の一貫性をめざす「京丹後市学校教育改革構想」においても、小中一貫教育とともに、「まちの宝である子どもたち」を、行政、学校、地域が一体となって育成していく新しい学校づくり、地域づくりのスタートである学校再配置と連動した学校教育改革を進めるものとしていました。現在、次の図 1-17 に示すとおり、小学校 17 校、中学校６校に再編しています。なお令和４年２月には、これまでの再配置の検証結果や文部科学省が示す「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置に関する手引」などを踏まえ、地域の現状や市の行財政運営等を考慮するとともに、将来の小中学校の子どもたちにとって、より良い教育環境の姿を最優先に描くこととして、「京丹後市学校適正配置基本計画（京丹後市学校再配置基本計画改定版）」を定めています。

【保幼小中一貫教育】

本市教育委員会では、平成 24 年（2012）11 月に「京丹後市の学校教育改革構想」を策定し、「子どもたちの育ちと指導の一貫性を目指して」をテーマとして、平成 26 年（2014）度から小中一貫教育を順次導入しました。本市の小中一貫教育は、中学校区を単位として、既存の校舎を活用した「施設分離型」で実施しています。中学校区ごとに教育目標である「目指す子ども像」を設定し、校区内の離れた場所にある小学校と中学校がカリキュラム、生徒指導の方針などを一貫させ、互いに連携、協同しながら一体となった教育活動を系統的に行ってきました。令和２年度より「保幼小中一貫教育」と名称を改め、就学前の保育所や幼稚園を加え、中学校卒業までの 10 年間を見据えた保幼小中一貫教育を進めており、定期的にモデルカリキュラムの見直しを行っています。

【丹後学の取り組み】

本市では、学習を通して郷土への誇りと愛情を育て、地域を通して自己の生き方、あり方を考えるため、本市の「人」、「環境」、「文化」を学ぶ「丹後学」を保幼小中一貫教育モデルカリキュラムとしています。

幼稚園・保育所を０期として中学校２・３年までのⅢ期までに区分し、地域の人々との協働によって、地域から学ぶ学習、地域と連携したキャリア教育を進めています。

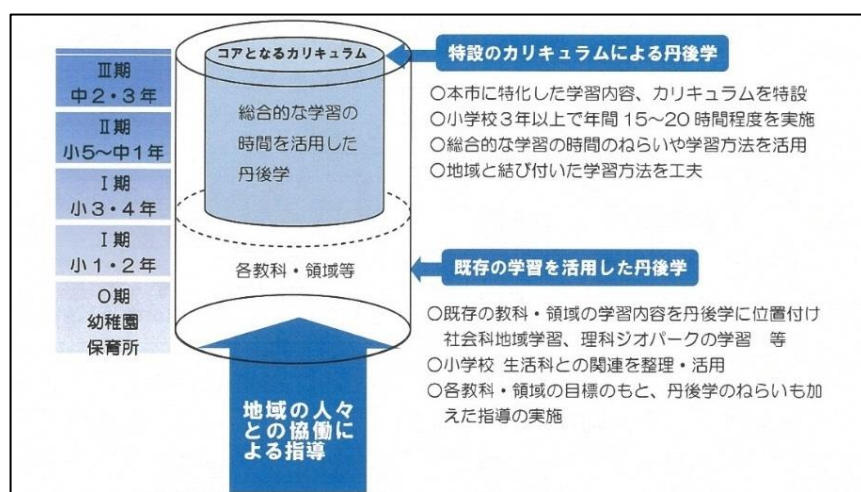



図 1-16　丹後学のグランドデザイン

出典：京丹後市小中一貫教育モデルカリキュラム＠丹後学」：カリキュラムの概要と活用

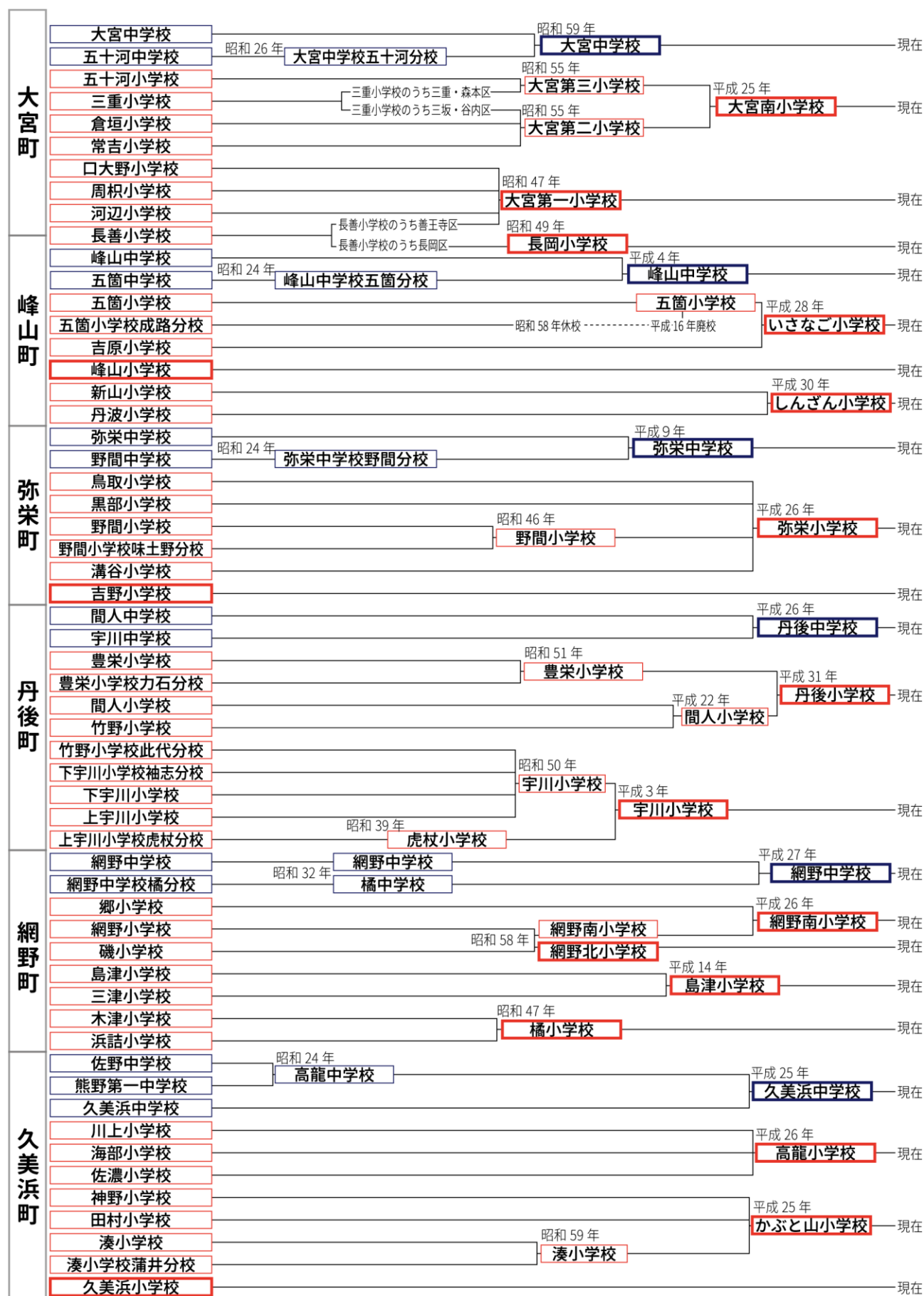



図 1-17 市内の小中学校再編の推移

2－3. 産業

【農業】

本市の花崗岩地帯の山々とその周辺は、昭和後期より国営農地開発事業などが進み、現在では京都府下最大規模の農業地域となっています。

花崗岩地帯を水源とするきれいな水を活用した水稲のほか、海岸砂丘におけるメロン、スイカ、サツマイモなどの栽培、海岸段丘や丘陵地ではナシやモモなどの果樹栽培が行われています。主な農産物は、水稲の他、大豆、小豆、さつまいも、かぼちゃ、大根、ブロッコリーのほか、黒大豆や水菜、九条ネギを中心とした「京野菜」の生産が特筆されます。近年はお茶の生産も増加しています。これらの農産物は、貴重な観光資源のひとつとなっています。

一方で、過疎化・高齢化に伴う農業従事者や後継者の減少による労働力不足、農産物の輸入自由化や価格低迷に加え、野生鳥獣による農作物被害も年々深刻になっています。近年は、農業の生産機能だけでなく、集落自治機能、国土保全、環境保全など、農業の持つさまざまな機能が見直されています。こうした中で、新規就農者や後継者の確保、育成、地産地消の仕組みづくり、観光農園の活用など、農業振興に向けた取り組みが進められています。近年では、「美食観光事業」として、四季折々の京丹後らしい特色ある農林水産物を使用したスイーツを開発・製造して、市内の店舗・施設等で販売しています。

安納芋を利用したタルト

琴引浜の塩を利用したきんつば

ブドウ、モモを利用したゼリー

【漁業】

丹後では、古代より、豊かな海のもと、漁業が盛んに行われてきました。現在も、網野町浜詰や久美浜町湊宮ではブリ漁に用いる定置網漁が行われています。また、間人ガニを対象とした底曳き網漁業等により豊かな魚介類が水揚げされています。さらに、中浜地区では一本釣りの漁法が受け継がれています。また、自然の景勝がそのまま残る本市の海域は、山から流れでた養分がそのまま海に入り込み、植物性プランクトンが豊富です。このため、サザエ、アワビなどの貝類が餌とするワカメ、テングサ、アラメ、ホンダワラなどの海草類がたくさん生息するため、黒アワビが特産となっています。

近年は、漁獲量の減少や輸入魚産物の増加による魚価低迷、漁業従事者の高齢化や後継者不足などの課題を抱えていますが、漁港漁場の整備だけでなく、サザエやアワビなどの稚貝やアユ、クロダイ、ヒラメの稚魚の放流など、「つくり育てる漁業」を推進しているとともに、漁業をまもり育てていくための様々な取り組みを進めています。久美浜湾湊宮では、近年、若い世代によるカキ養殖業の事業展開がみられるだけでなく、中浜漁港では婦人部による黒アワビの養殖が進められるなど、育てる海業によって得られる恵みが本市の特産品として注目を浴びています。

さらに、観光立市を目指す本市では、観光産業と連携した“地産来消”の取り組みや漁業体験事業、漁業や海を活用した一日漁師体験などのアクティビティを柱とした「海業」の取り組みなどを進めています。また、本市の特徴的な産業である漁業について、総合的な学習の時間に地域漁業に関する講座を本市職員が行い、子どもたちに郷土の良さを知ってもらう取り組みを進めています。

【酒造業】

古代の丹後の酒造業の記録としては、『丹後国風土記』逸文に記される羽衣天女伝説のほか、大宮売神社（大宮町周枳）の祭神大宮売神が宮中の造酒司に祀られていること、丹後国から酒米を納めたことが記された平城宮木簡が見つかっていることが特筆されます。

本市では、花崗岩地帯から流れでるきれいな水と米により、竹野酒造、白杉酒造、木下酒造、吉岡酒造場、熊野酒造など多くの造り酒屋が操業し、さまざまな味覚、風味が楽しめる日本酒がつくられています。近年は、市内の造り酒屋で体験試飲や酒蔵見学が行われるなど、観光事業との連携も進んでおり、映画の舞台として知られる酒蔵もみられます。

映画の舞台として知られる酒蔵

また丹後町宇川を中心とした地域では、かつて丹後杜氏が出稼ぎに出ていました。その歴史は江戸時代にさかのぼるもので、海が荒れて漁に出ることができない冬季の厳しい気候の時期に行われた出稼ぎでした。その後、大正から昭和期にかけては、近畿や北陸を中心に全国で活躍し、各地で名酒を生産しました。

【丹後ちりめん】

日本での織物技術は、弥生時代に稲作とともに普及しました。古くは、弥生時代後期の今市墳墓群（大宮町河辺）出土の「やりがんな」に巻いた絹糸、古墳時代前期のカジヤ古墳（峰山町杉谷）出土の筒形銅器についた平絹、天平11年（739）、鳥取郷（弥栄町）から貢納され正倉院宝物に残る「絁」があります。また南北朝期から室町時代初期とされる『庭訓往来』には全国の特産品の中に「丹後精好」があげられています。「精好」とは、生地の質が緻密で張りを持つ絹織物で、主に上質の袴に使用された絹織物です。

江戸時代前期の京都では、友禅染の技法が開発され、その染め下地として西陣で撚糸を伴う「ちりめん」の白生地が織られました。同じ時期の丹後では、農家の副業として「撰糸」や「紬」が生産されていましたが、当時の峰山藩は災害や飢饉が重なり、藩財政や生活が困窮していた時期でした。峰山の絹屋佐平治（森田治郎兵衛）は、西陣で修行奉公の末、享保５年（1720）にちりめんの技法を丹後にもたらしました。佐平治が初めて織ったちりめん布は、禅定寺（峰山町小西）に納められ、現在も寺宝として大切に保存されています。さらに寛政元年（1789）、峰山藩は藩令により「反別検査と改印制」を実施して粗製乱造を防ぐことにしました。この制度が丹後ちりめんの「品質検査制度」の始まりで、丹後機業史の中で画期的なものといわれています。また文政３年（1820）には、峰山藩のほか宮津藩などの機屋が連携し、口大野村に「三領分大会所」と呼ばれる組織を造りました。その後、天保11年（1840）の『諸国産物大数望』では、西の小結に「タンゴ縮緬」が記されるまでに発展しました。また金刀比羅神社（峰山町泉）境内社の木島神社には、養蚕の敵であるネズミを取るのが猫であるため、狛犬の代わりに大変珍しい狛猫が祀られています。

明治期に入ると、生糸や織物は、重要な輸出品となりました。丹後ちりめんも海外向けの製品が求められ、国内向けには、撚糸を使わないちりめん風の旭織や、大宮町口大野の蒲田善兵衛が発明した綿ちりめんなどが作られました。これらは、ちりめん生産に粗製乱造傾向を生むことになったため、大正から昭和戦前期には丹後織物同業組合（現在の

綿縮緬始祖蒲田氏記念碑

丹後織物工業組合）が設立され、丹後震災からの復興を経て、精錬を丹後で行う「国練」が実施されました。ちりめん製造は、個人経営の賃機のほか、足米機業場（網野町島津）などの大型のちりめん工場が稼働しており、技術面の指導は京都府立織物試験所（現在の京都府織物・機械金属振興センター）が行いました。試織品見本帳などは、当時のようすを伝える資料です。また絹糸の原料となる蚕を飼う養蚕は、大正年間が最盛期でした。昭和 20 年代までは盛んに行われ、農家の大切な収入源でした。遠下の風穴（丹後町遠下）は、蚕の卵である蚕種を保管した場所でした。

戦時中の中断期を経て、戦後も海外向け生産が引き続き行われました。転機となった高度経済成長期には、和服生地の生産が中心となり、いわゆる「ガチャ万景気」のもと、昭和 48 年（1973）に生産量は頂点に達しました。その後、生産量は減少しますが、一方で着物以外の分野の開発や海外への挑戦を行う事業者もあり、現在の丹後ちりめんは新たな展開を見せています。

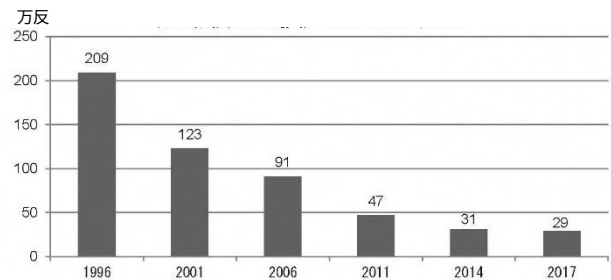



図１－18　丹後織物産地の推移(ちりめん生産量)
資料:丹後織物工業組合調査

市では、平成 26 年(2014)12 月には、蚕種業、養蚕業、製糸業、絹織物業、絹製品製造加工業など、現在の蚕糸・絹業の振興を図るとともに、絹の素材・機能を活用したヘルスケア産業、医療・医薬産業、産業素材産業など新たな絹産業の創業や事業創出をめざして、『新シルク産業創造研究会』を創設し、検討を行い、平成 28 年（2016）３月に「絹のふるさと京丹後推進プラン」を策定しました。

【機械･金属産業】

織機調整技術者や戦時中の疎開工場の出身者による起業をルーツとし、その後中核企業の地域貢献により市内取引関係の構築も進む中、機械・金属産業が大きく躍進しました。機械計算機の生産が本格的となり、昭和 44 年（1969）には、生産台数が国内シェアの 40%を占めていました。これが基礎となり、ミシンの部品やオートバイ部品、自動車部品の生産から工作機械製品の製造が丹後の「ものづくり」の基盤を支えています。機械・金属産業を支える人材、特に若者のものづくり離れや新規学卒者の市外流出により、人材の高齢化や人材不足が課題となっていますが、関係団体や企業が一体となって、産業人材の確保、育成に取り組み、企業誘致による新規雇用の場づくりなど、新しい働き方の創造に取り組んでいます。

【ものづくりのふるさと丹後】

『丹後国風土記』の羽衣天女は、万病に効く酒を造った豊宇賀能売神、すなわち伊勢神宮外宮の豊受大神と記されます。丹後には元伊勢伝承があり、天女が祀られた奈具神社をはじめ豊受大神を祀る神社があります。近世にさかのぼる伝承として、月輪田（峰山町二箇）は、豊受大神による稲作発祥の地と伝え、木津（網野町）の地名の由来は、垂仁天皇の時代に橘を持ち帰った菓子作りの祖、田道間守命との関係が伝わっています。ヤマトタケルの祖母である垂仁天皇の皇后は、丹後出身のヒバスヒメであり、そこから想起されたと思われます。

本市のものづくりの源流は、後世の伝説・伝承を根拠とする場合が多いですが、一部は古代にさかのぼるものです。このため、本市では「日本のふるさと丹後」をキャッチフレーズの一つとしてまちづくりを推進してきました。

【観光客数と観光産業】

京丹後市の観光産業は、夏季の海水浴、冬季のカニを中心に、昭和 50 年代頃から平成 10 年（1998）頃にかけて大きく成長し、平成 10 年には年間観光入込客数が 223 万人に達しました。しかし海水浴やカニによる誘客が減少したことに加え、旅行形態の変化、旅行ニーズの多様化などの要因により、平成 24 年（2012）には観光入込客数が 172 万人にまで落ち込みました。その後、平成 25 年（2013）からは府北部 7 市町の連携による広域的滞在型観光を目指した「海の京都」の取組がスタートし、平成 26 年（2014）には「海の京都観光圏」として国の認定を受け、平成 27 年（2015）には「海の京都博」の開催、また同年の京都縦貫自動車道全線開通、平成 28 年（2016）の山陰近畿自動車道「京丹後大宮インターチェンジ」までの延伸なども相まって、令和元年（2019）には、観光入込客数が 212 万人まで回復しました。その後、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、緊急事態宣言の発出や外出自粛の要請が行われ、多くの観光施設で閉館、休業、入場制限等が行われたこと、各種イベントの中止等から、令和２年（2020）度は 165 万人まで減少しました。

観光を取り巻く課題としては、①観光客の滞在時間が短く、日帰り客数と比較して宿泊客数が伸び悩んでいること、②高速道路開通による観光客増が客単価増につながっていないこと、③夏・冬の「二季型の観光地」で、年間を通じた安定した誘客が実現していないこと、④外国人旅行客の誘致が不十分であること、⑤観光地としての認知度が低く、効果的な観光情報の発信ができていないこと、⑥評価が高い「食」の魅力が十分に活用されていないこと、⑦ジオパークが育む地域資源、四季折々の魅力が十分に生かされていないこと、⑧地域や業界等が一体となって取り組む体制、機運が不十分なこと、⑨観光業を支える人材不足、が挙げられています。

出典：第 3 次京丹後市観光振興計画「”旬”でもてなす食のまち」、京都府観光入込客数

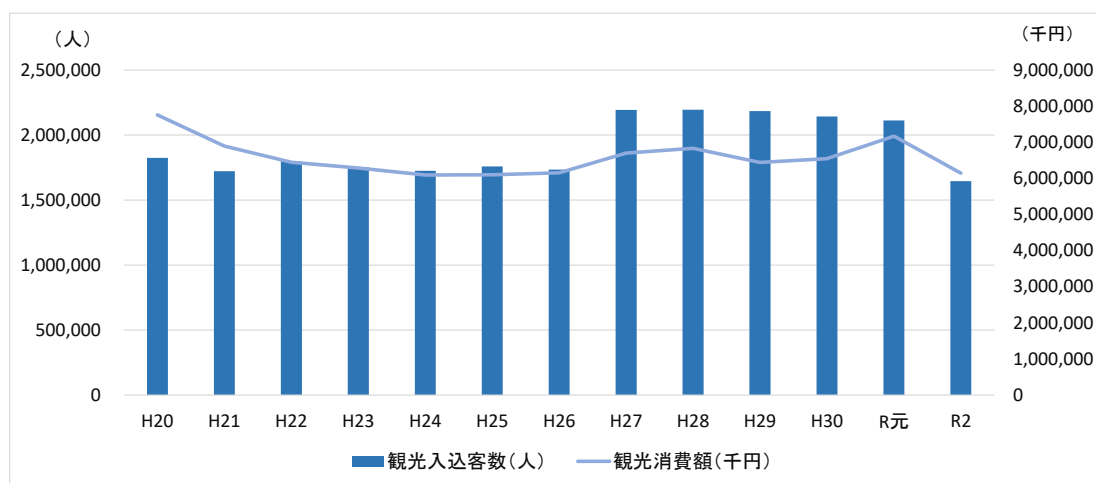



図 1-19 観光入込客数･観光消費額の推移

資料：京都府観光入込客数及び観光消費額

五色浜

経ケ岬灯台

アミティ丹後

資料：京丹後市 HP

【観光振興策の展開】

本市は平成 21 年（2009）の「京丹後市観光立市推進条例」の制定以降、「京丹後市観光振興計画」〈平成 21 年（2009）：第１次、平成 25 年（2013）：第２次〉を策定して観光施策を推進してきました。しかし、観光を取り巻く本市の諸課題に対応した新たな観光立市の実現を目指すことが求められることから、第３次京丹後市観光振興計画〈“旬”でもてなす食のまち～ジオの魅力あふれる「滞在型観光地へ」〉（計画期間：2018～2022 年度）を策定しました。

第３次観光振興計画では、「他地域との差別化」を図り、「本市の強みを活かせる、絞り込みの戦略」として「旬」と「こだわり」を持つ「食でもてなす観光」を中心に、「ジオパークが生み出す、魅力ある多様な資源」を活かした、四季を通じた「滞在型の観光地づくり」を進めることをコンセプトに掲げています。

計画の基本方針として、①「“旬”でもてなす食の観光」を徹底的に推進する、②ジオパークや四季の魅力を活かした「体験・滞在型の観光地」をつくる、③外国人旅行客、宿泊客等の誘致を強化する、④「ジオ・スポーツ」や「ジオ・アクティビティ」で観光交流人口の拡大を目指す、⑤徹底したマーケティング手法で戦略的に観光情報を発信する、⑥地域総ぐるみの観光地づくりを推進する、の６つを掲げ、この基本方針に基づく施策を展開しています。

さらに６つの基本方針のなかでも、①と②を重点的かつ優先的な基本方針と位置づけ、基本方針②の戦略的なプロジェクトとしては、日本遺産「丹後ちりめん回廊」の織物業や「ハイテクランド」を構成する機械金属業などの特色ある産業を活かした「産業観光」の展開や「丹後王国」などの歴史や遺跡、ふるさとの伝説を観光に活用することを掲げています。

計画の基本方針を受けた重点的な戦略プロジェクトとして、美食観光、まち歩き観光、体験型・産業観光、教育旅行などのアクションプランを実行するため、ジオパーク主要スポットや日本遺産「丹後ちりめん回廊」構成文化財のほか、間人・竹野の漁師町や峰山の金刀比羅神社周辺、網野や浅茂川の機屋の町並み、久美浜の歴史的町並み、湊宮の町並みなどの町歩きスポットを観光振興計画マップとして取り上げています。

こうした観光振興計画に基づく戦略的な取り組みとして、京丹後市観光公社（以下「観光公社」という）では、公式ホームページ「京丹後ナビ」を開設し、ジオの恵みである温泉、旬でもてなす食のまち、歴史文化にあふれるまち、丹後半島を一周するツーリングなどの観光情報を提供しています。さらに、観光公社がツアーを主催して、市内の各地の魅力を情報発信しています。

細川ガラシャ隠棲地「味土野」
を巡る旅マップ

このほか、リアルタイム道路情報やライブカメラなどの情報や映像を発信するだけでなく、デジタル観光パンフレットの公開や各所で展開する体験メニューを紹介しています。

また、「丹後ナビ」では市内のロケ地やロケ作品を紹介し、「ロケのメッカ」を目指して、官民が一丸となり積極的に情報を発信していこうとしています。その結果、「第 12 回ロケーションジャパン大賞」に、『映画　太陽の子』〈令和３年（2021）８月上映〉（丹後町平海岸）と『天外者』〈令和２年（2020）１２月上映〉（網野町三津漁港）のロケ地として、初めて京丹後市がノミネート地域・作品に選ばれました。

2−4. 土地利用

京丹後市域について、土地利用種別の面積割合をみると、森林が79.2%と最も多くなっており、次いで田が10.0%、建物用地が4.6%となっています。

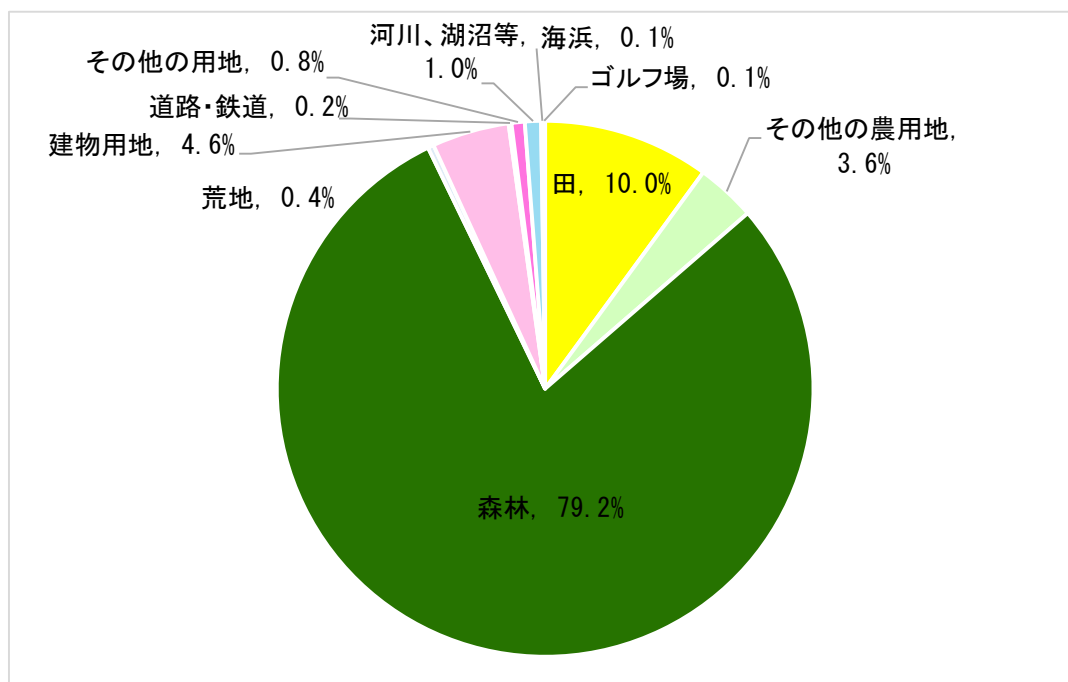



図 1-20 土地利用種別面積割合

※国土数値情報土地利用細分メッシュデータ〔H28〕※単位:3 次メッシュ 1/10 細分区画(100m メッシュ)を用い、GIS 上での面積割合を概算した。

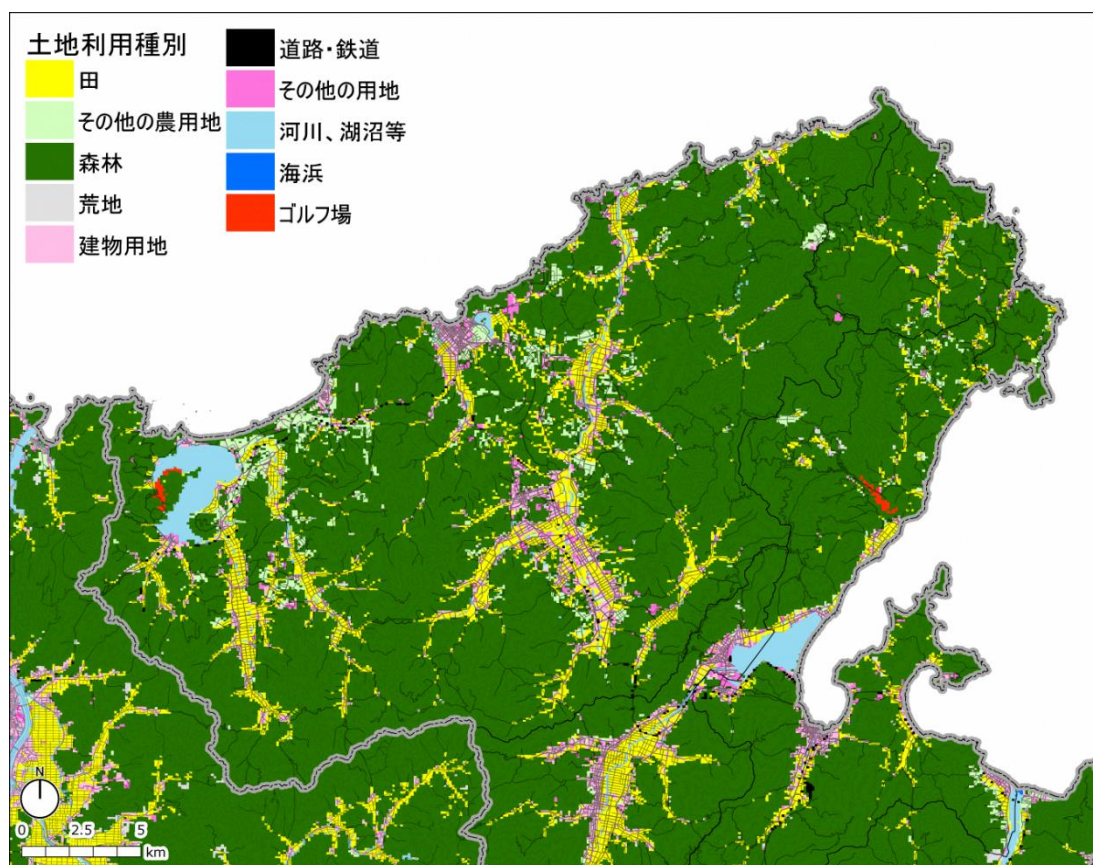



図 1-21 土地利用細分図

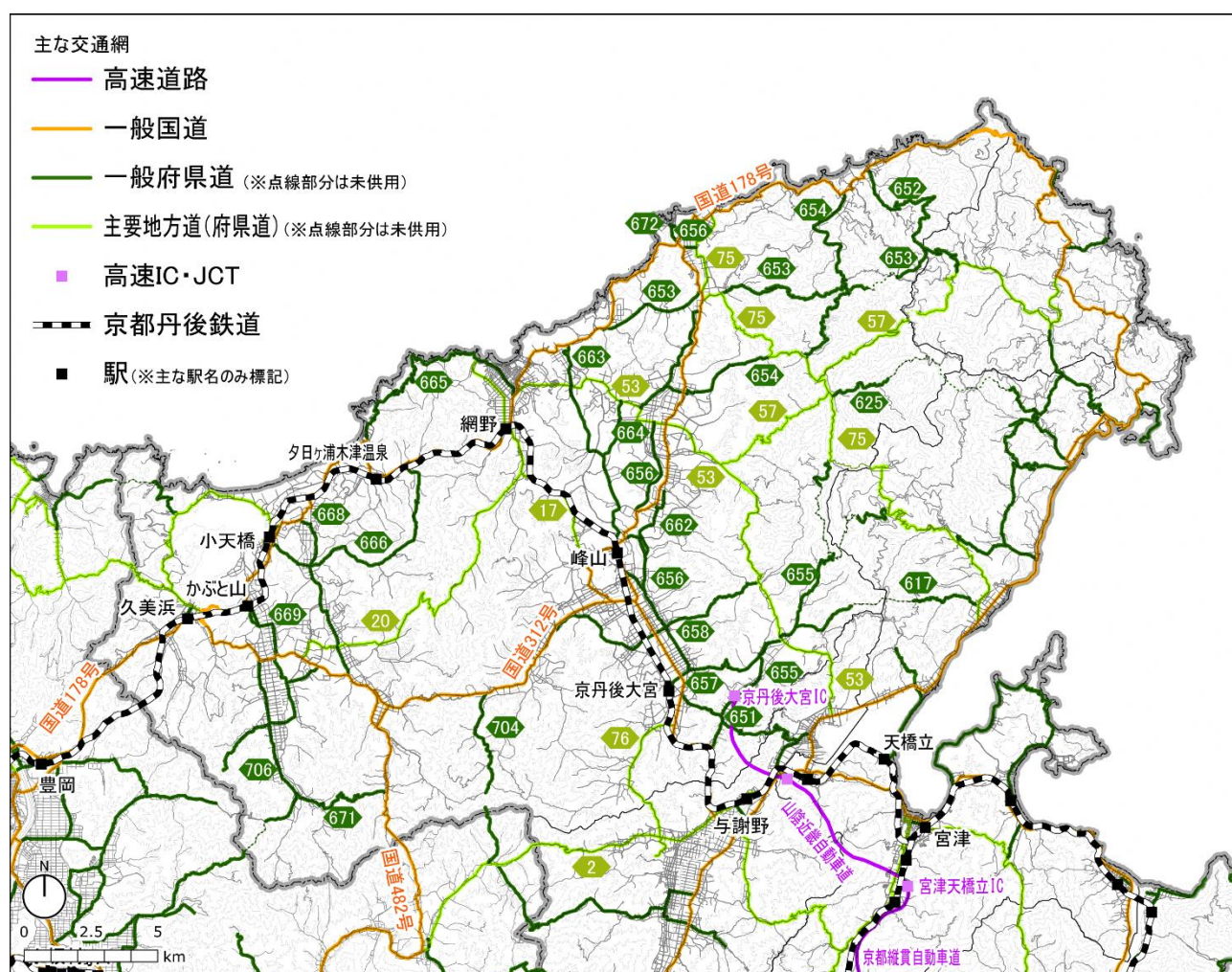
資料:国土数値情報土地利用細分メッシュデータ〔H28〕※単位:3 次メッシュ 1/10 細分区画(100m メッシュ)より作成

2−5. 交通

自家用車などによる市外から京丹後市へのアクセスには、平成 28 年（2016）に供用が開始された山陰近畿自動車道の京丹後大宮インターチェンジが玄関口となっています。現在、自動車道は、峰山、網野、豊岡方面への延伸工事が着実に進められています。このほか、市内の道路網は、国道 178 号、国道 312 号、国道 482 号を基幹として、主要地方道 碇 網野線や味土野大宮線などの府道が整備されています。府道のうち山間部では、一部幅員が狭い区間もみられます。

市域の主な公共交通機関としては、鉄道と路線バスがあります。このうち鉄道は、宮津と豊岡を結ぶ京都丹後鉄道宮豊線が運行され、宮津市、与謝野町、伊根町を含む２市２町で、65 歳以上の高齢者を対象に運賃を上限200 円とする「高齢者 200 円レール」を実施しています。路線バスとしては、丹後海陸交通（株）が９路線[1]を運行されているほか、市営バス９路線を運行しており、通学、通院、買い物など地域住民にとって不可欠な交通機関となっています。また市内のバスは、平成 22 年（2010）よりすべての路線で運賃が一乗車につき 200 円を上限とする「上限 200 円バス」を運行しています。バスの大幅な利用促進に結び付いたこの政策は、その後、宮津市、与謝野町、伊根町にも広がりました。

このほか、京都方面へは京都丹後鉄道の特急列車が、京都・大阪方面へは、丹後海陸交通（株）の高速バスが運行されており、利便性が向上しています。

図 1-22 主な交通網

出典：京都府・市町村共同統合型地図情報システム〔GIS〕（京都府管内道路マップ）、国土数値情報〔R2 鉄道時系列データ〕〔R2 高速道路時系列データ〕より作成

1 京丹後市公共交通ガイドブック（令和４年３月 12 日改正）

2－6. 法規制

【都市計画区域】

市域では、合併前の峰山町と網野町が、町域の一部に都市計画区域の指定を行っており、京丹後市発足後もそのまま引き継がれていました。しかし、その後の社会情勢の変化もあり、平成 27 年（2015）3 月 31 日、峰山都市計画区域、網野都市計画区域およびその周辺を一つの都市計画区域とし、「京丹後都市計画区域」が指定されました。

都市計画地域に含まれる地域は、峰山町の吉原、不断、四軒、上、織元、古殿、室、呉服、富貴屋、堺、浪花、白銀、泉、光明寺、千歳、御旅、杉谷、安、菅、新治、長岡、新町、荒山、内記、丹波、矢田、石丸、赤坂、大宮町の口大野、周枳、河辺、善王寺、森本の一部（工業団地周辺）、網野町の網野、浅茂川、下岡、小浜、公庄、高橋の一部、郷の一部、生野内の一部（旧郷村における京都丹後鉄道軌道から東側）となっています。

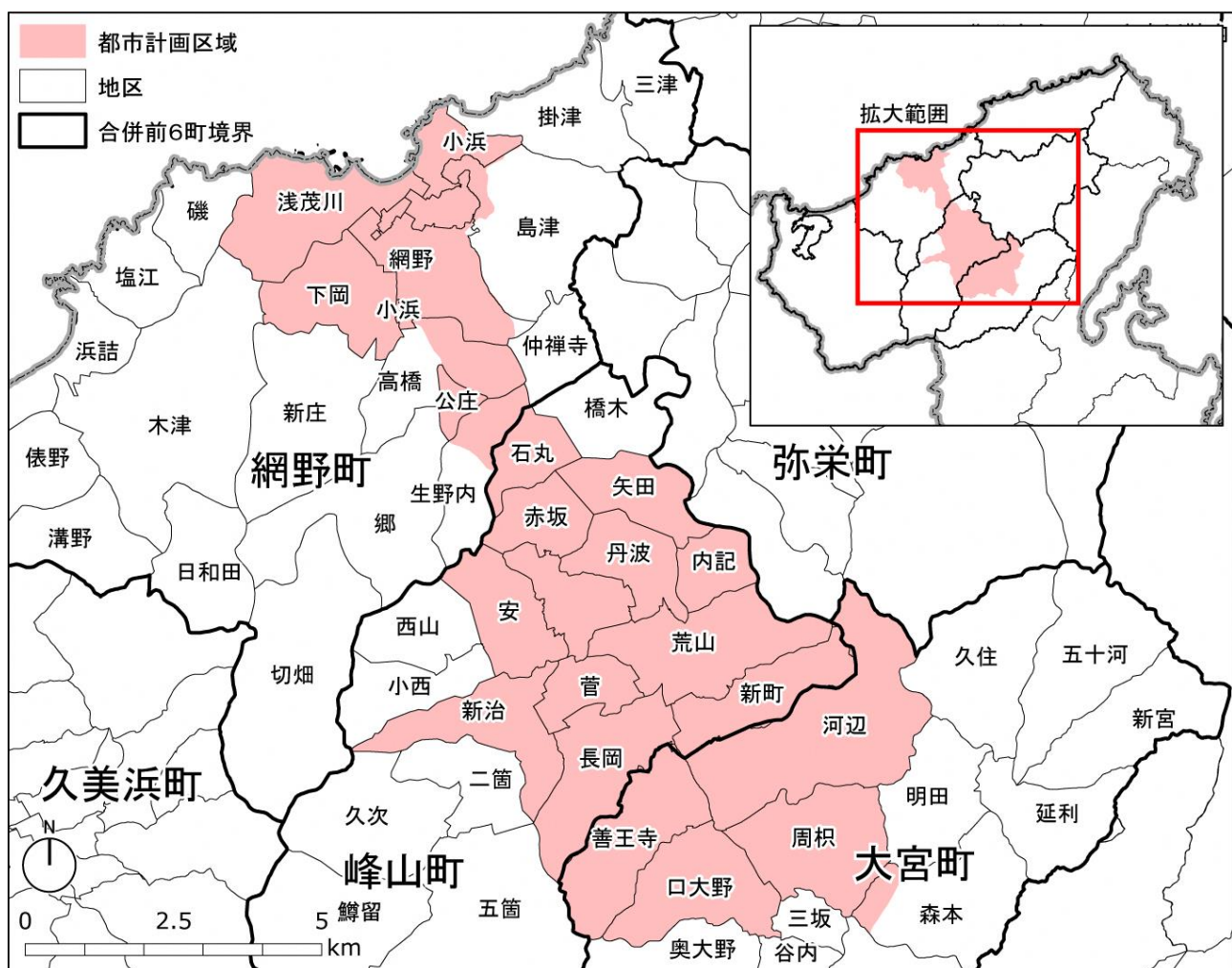



図 1-23 都市計画区域

出典：都市計画区域新旧比較図（平成 27 年3月 31 日公示）、国土数値情報〔H30 都市地域データ〕より作成

【自然環境保全地域・自然公園地域】

市内では、自然環境保全法や、京都府環境を守り育てる条例に基づく京都府（歴史的）自然環境保全地域として、府内有数のブナ林を有する「丹後上世屋内山」と、信仰の対象として城跡とともに守られてきた「権現山」の２地区が指定されています。

自然公園としては、山陰海岸国立公園、丹後天橋立大江山国定公園の２か所が指定されています。

山陰海岸国立公園区域に含まれる五色浜では、流紋岩の柱状、板状節理がよく発達した海食崖や海食台地があり、ワカサハマギクやナガハシスミレなどの貴重な植物群落がみられます。また、小天橋では、トウテイラン、ウンラン等の学術価値が高い海岸植物群落がみられます。

丹後天橋立大江山国定公園のうち、丹後半島海岸地区と世屋高原地区の２地区が市内に位置しています。丹後半島海岸地区は、半島が持つ多様な地形、砂浜や奇岩、砂州、島、岬など、さまざまな海岸景観、歴史的資源などの文化景観があり、海岸独特の風景が見られます。世屋高原地区は、太鼓山、依遅ヶ尾山、金剛童子山などの山が連なる高原からなり、府内有数の広大な落葉広葉樹林帯と谷を流れる渓流や希少な草花などによる山間景観、山頂から真下に海を見下ろす半島ならではの眺望景観、棚田や歴史的資源などの文化景観も含む多様な自然の風景地となっています。

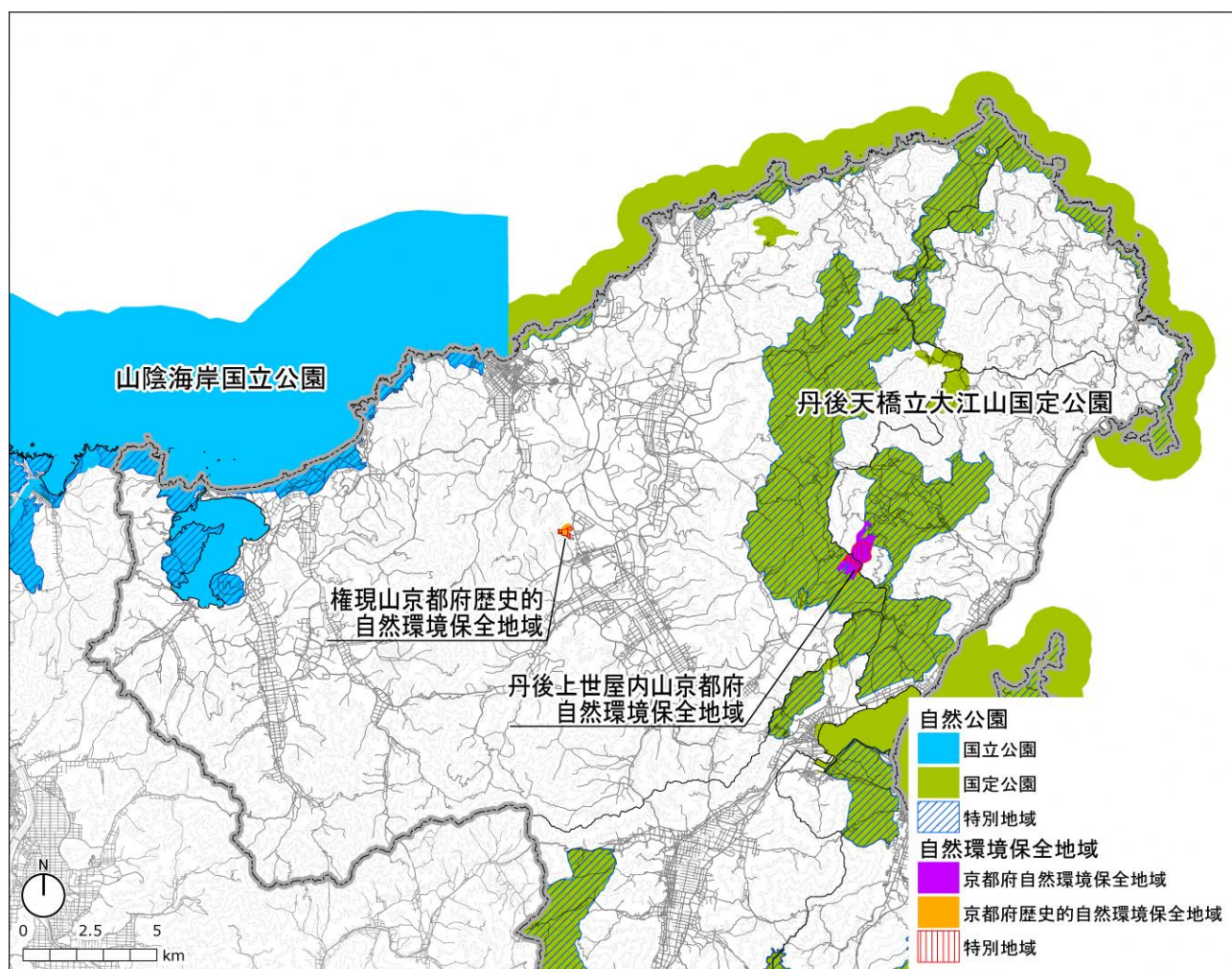



図 1-24 自然公園・自然環境保全地域の指定状況

出典：国土数値情報〔H27 自然公園地域データ〕〔H27 自然環境保全地域データ〕、京都府資料、環境省資料より作成

表 1-4 自然環境保全地域の指定状況

名称	所在・指定面積	指定理由／根拠法令
丹後上世屋内山京都府自然環境保全地域	■所在地：宮津市字上世屋及び京丹後市大宮町五十河地内 ■指定面積：115.24ha（うち京丹後市42.03ha、宮津市73.21ha）	宮津市と京丹後市大宮町の境にある丹後上世屋内山保全地域は、丹後半島東部の山地に位置し、府内有数のブナ自然林を擁する地域である。特に本地域のブナ林は標高 450m付近の低い標高から分布が見られるほか、「あがりこ」と呼ばれる巨大なブナの変木が点在するなど、学術上価値の高い自然であり、炭焼きや柴刈りなど地域住民の暮らしや営みと深い関わりを持ちながら守られてきたすぐれた自然環境であることから、保全地域に指定している。 ／根拠法令：①、②、③
権現山京都府歴史的自然環境保全地域	■所在地：京丹後市峰山町吉原権現山地内（吉原山城跡周辺地域） ■指定面積：14.83 ha	京丹後市峰山町の北西に位置する権現山（標高 181m）は、古くから信仰の対象として、城跡とともに自然が守られてきた地域である。特にほぼ極相状態の常緑広葉樹林や典型的な遷移途上の形態を示す落葉広葉樹林、針葉樹林などの天然林と吉原山城跡等の歴史的遺産などが密接に結びついて優れた歴史的風土を形成しているため、保全地域に指定している。／根拠法令：②、③

根拠法令：①自然環境保全法（昭和 47 年法律第 85 号）、②京都府環境を守り育てる条例（平成 7 年京都府条例第 33 号）、③京都府環境を守り育てる条例施行規則（平成 8 年京都府規則第 5 号）

出典:京都府レッドデータブック 2015 より作成

表 1-5 自然公園の指定状況

名称	場所・指定面積等	概要
山陰海岸国立公園	■所在地：京都府、兵庫県、鳥取県 ■指定年月日： 昭和 38 年 7 月 15 日 ■面積（陸域のみ）： 8,783ha （京丹後市 1,206ha）	山陰海岸国立公園は、東は京都府京丹後市から西は鳥取県鳥取市に至る約 75km の海岸部が指定されている。山地が直接海に接するリアス海岸(沈水海岸)で、海食崖、海食洞、岩礁などが著しく発達し、海域と一体となった変化に富む海岸景観が特色となっている。その一方で、海食や河口から運ばれた砂により形成された鳥取砂丘に代表される開放的な砂丘の景観も特色となっている。このようにこの国立公園では特質な地形が随所で見られ、また、これらの地形はさまざまな岩石から成っていることから「地質の公園」、「岩石美の公園」とも呼ばれている。平成 22 年（2010）には山陰海岸国立公園を中心とする「山陰海岸ジオパーク」の世界ジオパークネットワークへの加盟が認定され、山陰海岸の重要性が世界的にも認められている。
丹後天橋立大江山国定公園	■所在地：福知山市、舞鶴市、宮津市、京丹後市、伊根町、与謝野町 ■指定年月日： 平成 19 年 8 月 3 日 ■面積：19,023ha （京丹後市 5,338ha）	①丹後半島海岸地区：当地区は、日本海に面し、岩礁海岸や砂浜海岸、砂州など、多様な海岸地形となっている。この地区は、半島が持つ多様な地形に併せ、砂浜や奇岩、砂州、島、岬など、さまざまな海岸景観があり、歴史的資源などの文化景観を含め、海岸独特の自然風景である。 ②世屋高原地区：当地区は、丹後半島の東側に位置し、権現山、太鼓山、依遅ヶ尾山、金剛童子山など、標高 500mから 600mの稜線が連なる高原地形である。この地区は、府内有数の広大な落葉広葉樹林帯と谷を流れる渓流や希少な草花等による山間景観、山頂から真下に海を見下ろす半島ならではの眺望景観があり、棚田や歴史的資源などの文化景観も包含する多様な自然の風景地である。 ③大江山連峰地区：当地区は、丹後半島の南に位置し、西から赤石ヶ岳、千丈ヶ嶽、鳩ヶ峰、鍋塚、鬼の岩屋、杉山、赤岩山、由良ヶ岳と、標高 600mから 800mの稜線が東西に連なっている連山地形であり、この地域を代表する山である。稜線からは 360 度の視界が広がるパノラマ景観や連山の山岳景観、鬼嶽稲荷神社から見る海原のような雲海と、多様な自然風景を望むことができる。また、当指定地域は、日本三景の天橋立そして、丹後王国さらには、大江山の鬼伝説など歴史や文化にも彩られている。

出典:山陰海岸国立公園指定書(環境省、平成 26 年3月 31 日)、京都府資料より作成

2－7. 美しいふるさとづくりの取り組み

琴引浜の西部

本市の海岸線は、山陰海岸国立公園及び丹後天橋立大江山国定公園に指定されています。また、丹後半島の山地は、市内を南北に流れる河川の源となっており、海と山が織り成す豊かで美しい自然環境は、本市の誇るべき資産です。この美しいふるさとの自然環境を保全し、将来の世代に引き継ぐため、市民および関係する全ての人が協力して次代に美しいふるさとを継承していくまちづくりに努めることを目的に「京丹後市美しいふるさとづくり条例」が制定されています。これは旧網野町が平成 13 年（2001）7 月に制定した条例を本市が引き継ぎ、平成 29 年（2017）４月１日に改正施行しています。

特別保護区域指定の看板

網野町掛津・遊にある「琴引浜」は、全国初の禁煙ビーチとして、本条例により特別保護区域に指定されています。鳴き砂を構成する砂はおもに石英ですが、汚れるとたちまち鳴かなくなるという繊細な性質を持っています。そのため、琴引浜では、花火、キャンプ、炊飯など鳴き砂に悪影響を与える行為を禁止しています。この貴重な鳴き砂を保護していくために、住民と行政が連携して様々な取組が続けられています。

禁煙ビーチのパトロール

昭和 62 年（1987）に設立された「琴引浜の鳴り砂を守る会」（以下「守る会」という）は、夏季の海水浴シーズンの禁煙ビーチパトロールのほか、自然環境保護のシンポジウムの開催、浜へ流入する河川の水質調査、漂着物展の開催など鳴き砂保護の啓発活動に取り組んでいます。

琴引浜鳴き砂文化館の
鳴き砂体験コーナー

この「守る会」の活動と呼応するように、「琴引浜」が平成 19 年（2007）、国の天然記念物及び名勝に指定されました。このほか、琴引浜観光資源調査の実施、「鳴き砂の保護と活用を考えるシンポジウム」の開催、鳴き砂保護対策の策定などが進んできました。中でも、全国の鳴き砂をもつ市町村に呼びかけ、「全国鳴き砂サミット」を開催したことが契機となって、「全国鳴き砂（鳴り砂）ネットワーク」（現在、15 市町で構成）が組織され、保護活動の輪が全国に広がっています。

琴引浜鳴き砂文化館の
漂着物の展示

また、鳴き砂保護の拠点施設として、平成 14 年（2002）10 月に「琴引浜鳴き砂文化館」が完成しました。この施設は、住民と行政による長年の鳴き砂保護活動が評価され、（財）日本ナショナルトラスト（当時）が建設し、内部の展示や周辺整備を本市が受け持って整備されたものです。

鳴き砂体験コーナーや世界の鳴き砂の展示など鳴き砂をテーマにした施設としては、世界でも初めての施設です。館内には、鳴き砂以外に海岸漂着物の展示や琴引浜に生息する微小貝や海浜植物などについての展示などもあり、本市の自然環境保全の拠点施設ともなっています。

2－8.山陰海岸ジオパークの取り組み

【ジオパークとは】

ジオパークとは、科学的に見て特別に重要で貴重な、あるいは美しい地質遺産を含む一種の自然公園です。地質や地形は、地球の歴史を物語っているだけでなく、人の暮らしや文化に直接結びついています。この大地の営みをひとつの遺産として学び、楽しむのがジオパークです。平成 16 年（2004）にユネスコの支援により、世界各地のジオパークが加盟する世界ジオパークネットワーク（GGN：Global Geoparks Network）が設立され、平成 27 年（2015）には世界ジオパークはユネスコの正式事業となりました。ジオパークは地質に関する自然遺産を保護するだけでなく、教育や地域の活性化に活かしていこうとする点で、主に保護を目的とする世界遺産と異なります。また「場所」だけでなく、そこで行われている活動（例えば教育プログラム、ガイド養成、地域振興策など）や、運営組織も重視されており、４年に一度の見直し、再審査が行われます。令和４年（2022）１月現在、日本ジオパーク認定地域は 46 地域、世界ジオパーク認定地域は９地域となっています[2]。

図 1-25 日本ジオパーク・世界ジオパークの認定状況

出典：山陰海岸ジオパーク推進協議会資料

【山陰海岸ジオパークの概要】

山陰海岸ジオパークは、北に日本海に面した山陰海岸国立公園を中心とする海岸部、南は中国山地北側に位置する山間部、東は京都府京丹後市経ヶ岬から、西は鳥取県鳥取市青谷海岸までの東西約 120km、南北最大約 30km のエリアで、面積は約 2,458.4 ㎢です。「～日本海形成に伴う多様な地形・地質・風土と人々の暮らし～」をテーマとして、自然遺産の保全と地域活性化につながる活動を展開しています。

【山陰海岸ジオパーク認定の経緯】

陸と海が一体となった変化に富む海岸景観を有する山陰海岸は、昭和 30 年（1955）に国定公園、昭和 38 年（1963）には国立公園に指定され、それ以降も海中公園区域が追加されるなど、海岸部だけでなく海域も含めた景観保全が進められてきました。

京丹後市内においても、地域の貴重な景観資源を市民の手で保全し、活用する活動が展開されてきました。例えば、昭和 62 年（1987）に地域住民を中心に設立された「琴引浜の鳴り砂を守る会」は、これまでに浜辺の清掃、鳴き砂保護の講演会やシンポジウムの開催、中国やタイへの鳴き砂調査団の派遣、浜への流入河川の水質調査や水質浄化、漂着物展の開催、浜の後背地の植林などに取り組んできました。平成９年（1997）に起こったナホトカ号重油災害では、琴引浜における重油回収作業の中心的役割を果たし、その功績が認められ、環境庁（当時）から「地域環境保全功労者」の表彰を受けています。現在は、夏期に禁煙ビーチのパトロール、漂着ごみの調査、はだしのコンサートの協力、全国鳴砂サミットへの参加、琴引浜鳴き砂文化館の運営を行っています。この他にも、農林漁業等、地域の

2 日本ジオパークネットワーク HP（https://geopark.jp/geopark/certification/）令和４年７月 25 日閲覧。

人々の長い営みの中で守り、育てられてきた地域景観は、大きく形を損なうことなく、受け継がれてきました。

そうした中、貴重な地形や地質を数多く有し、それらがもたらす多彩な自然を背景にした人々の文化や歴史があるというこの地域の特徴を活かし、地域のジオツーリズムを通じた自然遺産の保全と地域活性化につながる活動を展開していくことを目的として、平成 19 年（2007）7 月、山陰海岸ジオパーク推進協議会が設置されました。その後、専門家からの学術的な助言を受けつつ協議会での検討を重ね、世界ジオパークネットワークへの申請を行い、平成 22 年（2010）10 月に、世界ジオパークネットワークに加盟が認定されました。同年 12 月には、具体的な行動指針やプロジェクト、住民参加についての行動計画をまとめた「山陰海岸ジオパーク基本計画」を策定しました。

４年に一度の見直しは、平成 26 年（2014）９月、平成 31 年（2019）２月に行われましたが、２回連続で再認定されており、当地域で継続してきたジオパークをめぐる保存、活用の取組は、高く評価されています。令和３年（2021）11 月には、山陰海岸ジオパーク推進協議会として初となる、地元の事業者とのパートナーシップ協定が締結されるなど、持続可能な地域産業、ツーリズムの推進といった新たな取り組みも進められています。

図 1-26　山陰海岸ジオパークエリア　　出典:山陰海岸ジオパーク推進協議会資料

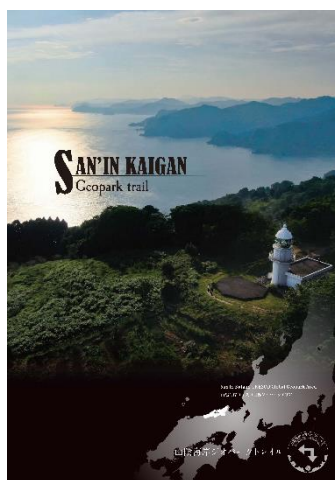
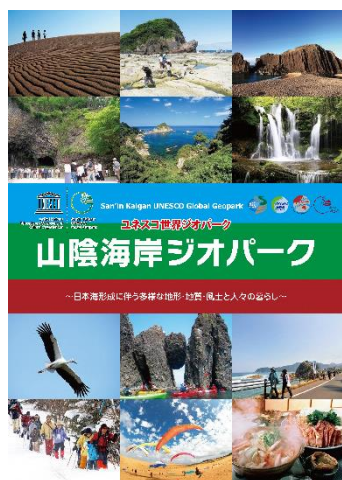



図 1-27　山陰海岸ジオパークの各種パンフレットとロゴマーク(右)

出典:山陰海岸ジオパーク推進協議会資料

【ジオサイトとモデルコース】

市内のジオサイト（ジオパーク内の見どころ）としては、琴引浜、郷村断層、五色浜、久美浜湾、かぶと山、立岩、大成古墳群、屏風岩、丹後松島、袖志の棚田、犬ヶ岬、経ヶ岬、経ヶ岬灯台などが挙げられています。これらジオサイトには、天然記念物や名勝などの文化財が含まれています。

また山陰海岸ジオパーク推進協議会では、「海わたり、街つなぐ」をコンセプトとして、上記のジオサイトにもなっている奇岩、洞門など、多彩な海岸地形を体感する総延長230.9km〈27コース：青谷（鳥取県鳥取市）～経ヶ岬（京都府京丹後市）〉の「山陰海岸ジオパークトレイル」を設定しています。市内では、このうちコース21から27が整備されており、内容、見どころには史跡などの文化財が多く含まれます。この他に、短時間でも楽しめるような散策モデルコースや、遊覧船などにより、海からの景観を楽しめるマリンコースなども設定されています。

表1-6 山陰海岸ジオパーク モデルコース

区分	コース名	行程・テーマ：内容	主な見どころ/距離
ジオパークトレイルコース	コース21	城崎マリンワールド（ガイドセンター）～小天橋： 田結湿地を通り、ほぼ森に帰った山道を超えるコース。豊岡市は日本で野生のコウノトリが絶滅する前に最後に生息していた場所で、復活した今は田結湿地でもコウノトリが見られる。日和山海岸のガイドセンターからは京都の丹後半島まで見ることができる。	田結湿地（豊岡市）、日和山海岸（豊岡市）、小天橋等/12.6km
	コース22	小天橋～浜詰夕日ヶ浦キャンプ場： 北近畿最大のロングビーチを歩くコース。日本海と久美浜湾を分ける砂州である小天橋は約6kmの砂浜が続く。箱石海岸周辺では、50種以上の貴重な海浜植物が自生しており、春には、青い海と色とりどりの花々を楽しむことができる。	小天橋、箱石海岸等/6.5km
	コース23	浜詰夕日ヶ浦キャンプ場～八丁浜シーサードパーク： 京丹後市網野町で生まれた静御前を祀る静神社を通るコース。様々な色の火山岩を含む凝灰岩の波食台「五色浜」や、美しい夕日で有名な夕日ヶ浦なども見られる。コースの途中、東経135度（子午線）が通る最北の地であることを示す子午線塔のモニュメントもある。	静神社、五色浜、夕日ヶ浦、最北子午線塔/11.9km
	コース24	八丁浜シーサードパーク～琴引浜掛津キャンプ場： 砂浜と日本海による美しい景色を楽しみながら歩くコース。名勝や天然記念物に指定された1.8kmの鳴り砂の浜である琴引浜や、高温水晶でできた白く輝く浜である水晶浜など、砂浜ごとに違った魅力と楽しみ方を感じられる。	琴引浜、水晶浜、等/4.2km
	コース25	琴引浜掛津キャンプ場～道の駅てんきてんき丹後： 間人皇后から地名を贈られたと伝えられる間人の地を歩く。周囲約1kmもある柱状節理の巨大岩石「立岩」や、間人海岸や城島にあるドーム状構造の地層など、太古の火山活動によりできた地質をコース各地で楽しめる。	琴引浜、城島、間人海岸立岩、等/10.7km
	コース26	道の駅てんきてんき丹後～高嶋オートキャンプ場：日本海を見下ろす海岸段丘の上にある大成古墳群を通るコース。海面からそそり立つ屏風岩もコース中に見られる。中盤の犬ケ岬からは、日本三景の一つ、宮城県の松島に似ていることから名付けられた丹後松島の美しい海岸線を眺められる。	大成古墳群、屏風岩、犬ヶ岬、等/9.9km
	コース27	高嶋オートキャンプ場～経ヶ岬駐車場： 近畿最北端の経ヶ岬から、地殻変動により隆起して形成された海食台を歩くコース。経ヶ岬には、名前の由来と言われるデイサイトの柱状節理が先端に並んでおり、全国に5基しかない第一等レンズが使用された灯台もある。「日本の棚田百選」に選ばれた袖志の棚田も見られる。	袖志の棚田、経ヶ岬、等/9.0km

散策モデルコース	立岩周辺散策コース	奇岩「立岩」と古代からの人々の営み： 鬼退治伝説や竹野神社・古墳など、立岩と丹後の歴史について学び、古代のロマンとジオパークの壮大な景観を体験できるコース	立岩、大成古墳、竹野神社、神明山古墳等/約5km（基本コース）
	琴引浜コース	白砂青松と鳴き砂をめぐる道： 全国でも有数の鳴き砂の浜「琴引浜」や、砂丘などをめぐるコース	琴引浜、離湖、水晶浜等/約 7.2km（基本コース）、約1.4km（オプションコース）
	夕日ヶ浦散策コース	きれいな夕日と温泉の町： 日本の夕日百選に選ばれている美しい夕日が浦周辺を楽しむとともに，温泉や砂丘地での農業を学ぶことができるコース	夕日ヶ浦、砂丘農園、木津温泉等/約 5.5km（基本コース）、約 4km（塩江海岸オプション）、約 12km（砂丘農園をめぐる）
	かぶと山登山コース	かぶと山から望む久美浜湾と小天橋： 久美浜湾の中央部にそびえる火山岩の残丘「かぶと山」に登り、雄大な日本海と、海流が作り出した独特な景観を楽しむことができるコース	かぶと山公園、かぶと山展望台、人喰岩等/約 5.3km（基本コース）、約 1.3km（ショートコース）
マリンコース	立岩・経ヶ岬コース	海岸段丘と小さな島々、荒々しい岩壁が織りなす美しい海岸： 海からは日本海の荒波により形成された犬ヶ岬、経ヶ岬などのダイナミックな岩壁や青の洞窟などが楽しめる	経ヶ岬、立岩、城嶋等/-
	夕日ヶ浦・琴引浜コース	伝説と浪漫あふれる岩石海岸とビューティフルビーチ： 琴引浜、八丁浜など砂浜の海岸が多くあり、散策や海水浴、サーフィン等が人気。遊覧船では五色浜など岩石海岸の他、浦島太郎伝説、静御前の歴史など伝説と浪漫の海上ドライブが楽しめる	琴引浜海水浴調、八丁浜海水浴場、夕日ヶ浦等/-
	久美浜コース	自然と人々の暮らしが調和した「神の箱庭」： 久美浜湾遊覧船では、船上から自然が作り出した地形の妙を眺めることができる	久美浜の町並み、小天橋、丹後砂丘等/-

出典：山陰海岸ジオパーク推進協議会資料より作成

図 1-28 山陰海岸ジオパーク モデルコースと地域資源（1／3）

出典：山陰海岸ジオパーク推進協議会資料より作成

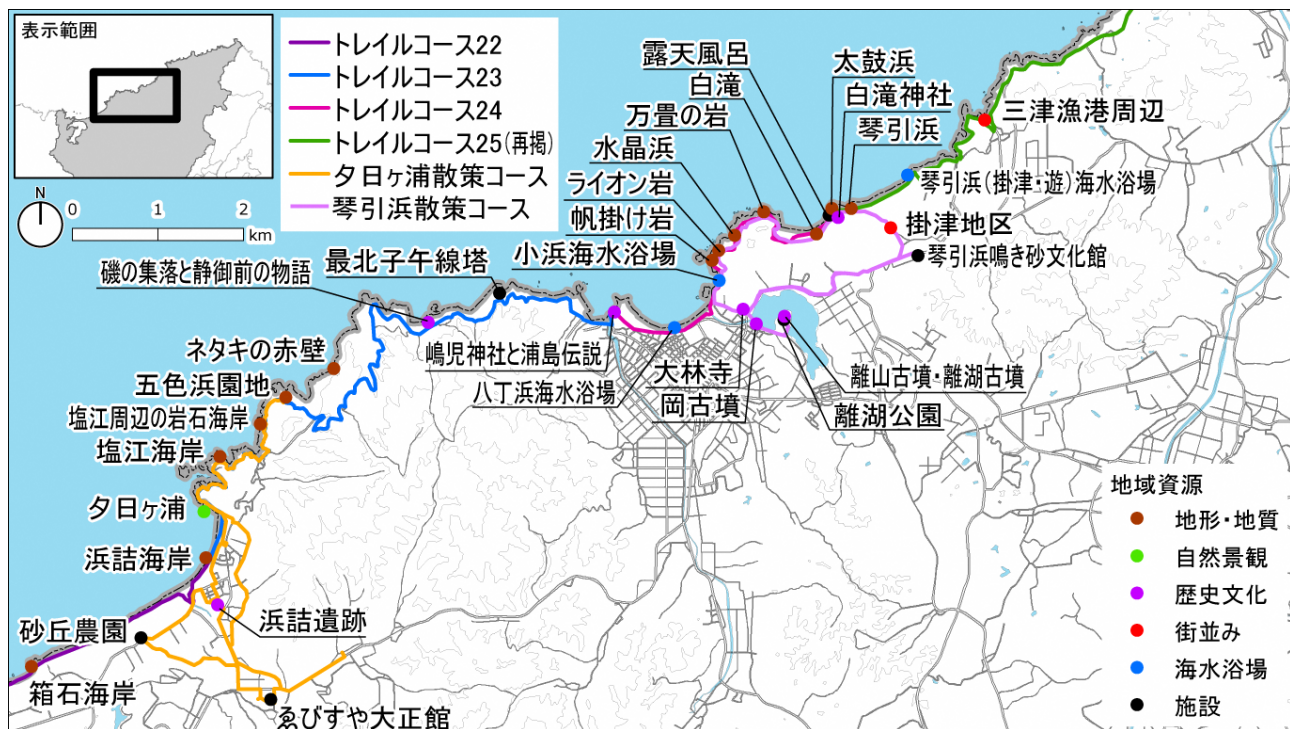



図 1-29　山陰海岸ジオパーク　モデルコースと地域資源(2／3)

出典：山陰海岸ジオパーク推進協議会資料より作成

図 1-30　山陰海岸ジオパーク　モデルコースと地域資源(3／3)

出典：山陰海岸ジオパーク推進協議会資料より作成

【大地の学習での活用】

本市では、保幼小中一貫教育の総合的な学習の時間「丹後学」の中で、さまざまな郷土教育を行っています。その中で、市内の小学校６年生は、琴引浜、郷村断層など山陰海岸ジオパークのジオスポットをまわる「大地の学習」の取組を行っています。

2−9. 市民による地域資源ガイド活動

まちづくりサポートセンターの活動
出典：山陰海岸ジオパーク

琴引浜ガイドシンクロの活動
出典：山陰海岸ジオパーク推進協議会

小天橋ガイドクラブが案内するフィールド
出典：山陰海岸ジオパーク推進協議会

本市の豊かな地域資源を活用するための活動が進んでいます。特に山陰海岸ジオパークの認定後、本市では、NPO 法人まちづくりサポートセンターや琴引浜ガイドシンクロ、小天橋ガイドクラブが多様な景観資源や歴史資源などの魅力や価値についてガイド活動を通じて、情報発信しています。

NPO 法人まちづくりサポートセンターは、経ヶ岬や屏風岩、立岩を中心に本市一円で活動している団体で、第１種ガイド 12 名、第２種ガイド１名を含む認定ガイドで構成されています。同団体が行うガイドの内容は地域ガイド部とネイチャーガイド部に分かれ、地域ガイド部では丹後の歴史や伝説、山陰海岸ジオパークのジオサイトを案内、解説しています。一方、ネイチャーガイド部は本市一円を対象として山野草の観察ガイドや京丹後市縦断トレイルガイドツアーを実施しています。

琴引浜ガイドシンクロは、琴引浜で暮らし、琴引浜の保全活動を行っているメンバーがガイドとなっています。琴引浜の鳴砂とそこで暮らす動植物の希少性を説明するだけでなく、琴引浜とともに暮らすガイドならではの魅力的なガイド活動を展開しています。例えば琴引浜の白砂青松保存活動に古くから取り組む地域の活動、本市の産業やナホトカ号重油災害等の説明も行っています。また、地域資源を活用して環境保全の教育的アプローチである出前授業やフィールドワークも行っています。さらに京都府最大の淡水湖である離湖の歴史文化や網野の町の成り立ちと、そこで生まれた文化についても案内しています。

小天橋ガイドクラブは、小天橋の自然と歴史にふれることをテーマとして、五軒家を中心とした小天橋の歴史や江戸時代に廻船業で発展した水戸口、船見番所跡、飢餓塚、大石塔、御柳、海隣寺、宝泉寺、蛭児神社などの案内を行っています。また、丹後砂丘では、ロングビーチ、砂丘農業、海浜植物、日間の松原を案内し、久美浜湾では、桟橋の風景、かぶと山、牡蠣の養殖、とり貝の養殖地などを案内しています。

これらのガイド団体は、山陰海岸ジオパークガイド認定制度に基づき活動している団体で、ガイド養成講座なども継続的に開催され、ガイドのスキルアップが進められています。

また、NPO 法人まちづくりサポートセンターと京丹後市観光公社、兵庫県姫路市のバス会社の３者の共同開発によるトレイルツアー「京丹後縦断トレイル」が人気を呼ぶなど、市民活動と連携した様々な取り組みが展開しています。

３．歴史的背景

３−１. 先史

人々の生活の始まり（旧石器・縄文時代）

市域で最も古い人々の痕跡は、近畿地方最古級の後期旧石器時代前半（約３万６千年前）の上野遺跡（丹後町上野）です。見つかった石器には、隠岐島（島根県）でとれる黒曜石など遺跡の近くに見られない石材も使われており、古くから人々の交流があったことがわかります。また浜詰遺跡（網野町浜詰）では、旧石器時代終末期（約１万６千年前）の細石刃が見つかっています。約１万２千年前にはじまる縄文時代の遺跡としては、日本海の砂丘海岸に営まれた平遺跡（丹後町平）、浜詰遺跡、函石浜遺跡（久美浜町湊宮）などがあります。また内陸部には、正垣遺跡（大宮町奥大野）、谷内遺跡（大宮町谷内）、裏陰遺跡（大宮町奥大野）などがあります。平遺跡では、厚さ４ｍにわたって、縄文時代の土器、石器などの遺物が見つかっており、約３千年もの間、人々が継続して生活していたことがわかりました。特に「平式土器」と呼ばれる縄文時代中期（約５千年前）の土器は、渦巻きの模様や紡錘文が描かれており、年代の基準となっています。浜詰遺跡では、府下で唯一の貝塚のほか、縄文時代後期（約４千年前）の竪穴住居跡が発見されており、昭和 34 年（1959）５月には現地に復元されています。

平遺跡出土土器

復元された浜詰遺跡の竪穴住居

扇谷遺跡の深い環濠

集落（ムラ）の成立と有力者の登場（弥生時代）

弥生時代の代表的な集落遺跡としては、稲の籾痕の残る土器が見つかった竹野遺跡（丹後町竹野）、深い環濠が掘られた高地性集落の扇谷遺跡（峰山町丹波）、大規模な環濠集落の途中ヶ丘遺跡（峰山町長岡）、玉つくりや鍛冶を行った奈具岡遺跡（弥栄町溝谷）、古代中国の新王朝（8～23 年）の貨幣「貨泉」が見つかった函石浜遺跡などが挙げられます。弥生時代後期（約２千年前）には、大山墳墓群（丹後町大山）、左坂墳墓群（大宮町周枳）、三坂神社墳墓群（大宮町三坂）など、有力者とその家族を埋葬した墳墓が平地に近い丘陵上に造られました。これらの墳墓では、亡くなった人を葬り、木棺に蓋をする時に土器を割る「墓壙内破砕土器供献」という葬送儀礼が行われました。また木棺内からは、当時、大変貴重であった鉄製品、首飾りなどに使われた青いガラス玉といった副葬品が大量に見つかっています。

弥生時代後期末（２世紀）の赤坂今井墳墓（峰山町赤坂）

大山墳墓群

ガラスの勾玉、小玉（左坂墳墓群）

は、東西36m、南北39m、高さ3.5mの巨大な方形の墳丘をもつ国内最大級の墳墓です。第４埋葬施設からは、中国の漢青という顔料を成分に含むガラス玉などを使った豪華な頭飾りが出土しており、葬られた有力者の力の大きさをあらわしています。また大山墳墓群からは河内（生駒山西麓）産の土器が、古天王墳墓群（弥栄町和田野）からは河内、東海地域の土器、赤坂今井墳墓からは東海から関東地域の土器が見つかっており、丹後の有力者と各地との交流のようすがうかがえます。

出土した頭飾り（赤坂今井墳墓）

丹後三大古墳の築造（古墳時代）

古墳時代前期初頭（３世紀）の大田南５号墳（峰山町矢田・弥栄町和田野）では、中国三国時代の魏の年号「青龍三年」（西暦235年）銘をもつ方格規矩四神鏡が出土しました。邪馬台国の女王卑弥呼が魏に使者を送ったのが西暦239年、翌年には100枚の銅鏡を受け取ったとされ、その中の１枚という説があります。この銅鏡は、日本で発見された年号をもつ鏡の中で最も古いもので、ほかに安満宮山古墳（大阪府）と関東地方出土の２面があります。

青龍三年銘方格規矩四神鏡
（大田南５号墳）

前期前葉（４世紀前半）のカジヤ古墳（峰山町杉谷）は、竪穴式石室から鍬形石などの腕飾り、杖の先につけた筒形銅器などが出土しました。前期後半（４世紀後半）から中期初頭（５世紀初頭）には、かつて存在したラグーン（潟湖）と港を望むように、網野銚子山古墳（網野町網野）、神明山古墳（丹後町宮）という巨大な前方後円墳が築かれました。前期後半に造られた蛭子山古墳（与謝野町）とともに丹後の三大古墳と呼ばれています。このうち網野銚子山古墳は墳丘長201mを測り、日本海側で最大の大きさを誇ります。また神明山古墳は墳丘長190mあり、船をこぐ人物を線刻した埴輪が見つかっています。丹後三大古墳は、丹後型円筒埴輪が使われており、網野銚子山古墳の墳丘には約2,000本が並んでいたと考えられています。

網野銚子山古墳

網野銚子山古墳出土
丹後型円筒埴輪

古墳時代中期前半（５世紀前半）には、墳丘長105mの黒部銚子山古墳（弥栄町黒部）が築かれました。しかし、その後の有力者の墓は、前方後円墳ではなく、円墳または方墳となります。大型の円墳の産土山古墳（丹後町竹野）、方墳の離湖古墳（網野町小浜）からは、地元でとれる凝灰岩で作られた「王者の棺」とも呼ばれる長持形石棺が出土しています。またニゴレ古墳（弥栄町鳥取）から出土した船形埴輪は、丸木舟から発展した準構造船と呼ばれる船をあらわしたも

神明山古墳

ので、当時の人々が交易に用いた姿が想像できます。しかしこの時期の丹後には、三大古墳を築いたときのような強大な権力をもった有力者は存在しなかったと考えられます。

古墳時代後期後半（６世紀後半）の有力者の墓として、湯舟坂２号墳（久美浜町須田）があります。横穴式石室からは、金銅装双龍環頭大刀をはじめ、大量の鉄製品、銅椀、須恵器などがみつかっています。

古墳時代後期の遠處遺跡（弥栄町木橋）は、製鉄、製炭、鍛冶など鉄生産を一貫して行っていた製鉄遺跡です。その後、奈良時代には、製鉄のほか、須恵器も造られていました。古代の丹後地域が極めて高い技術をもった地域であったことがわかります。

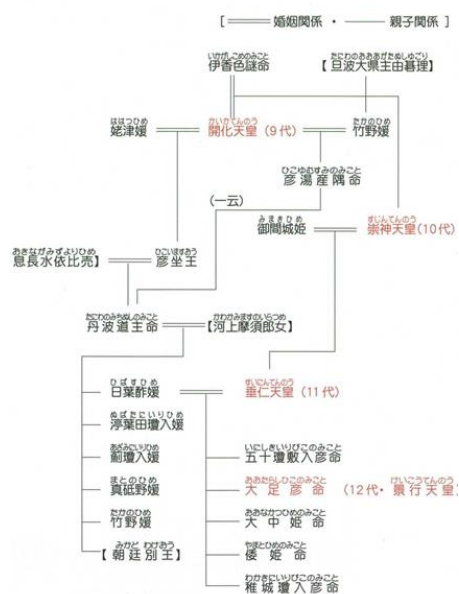
湯舟坂2号墳出土品
（奈良文化財研究所栗山雅夫氏撮影）

遠處遺跡鍛冶工房跡（公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター提供）

『古事記』・『日本書紀』にみる古代丹後

『古事記』（712 年）、『日本書紀』（720 年）には、古代の丹波（丹後）に関しての記述が多くみられます。それによれば、現在の丹後と丹波を合わせた領域が丹波と呼ばれていました。『古事記』によると、旦波（丹波）大県主由碁理という豪族の娘・竹野比売（媛）が、９代開化天皇の后となったとあります。この竹野比売が、年老いて郷土に戻り、竹野神社を創建したと伝わっています。

『日本書紀』によれば、開化天皇と姥津媛の子が彦坐王、その子が丹波道主命です。『古事記』には、彦坐王が玖賀耳之御笠という丹波の一族を征伐したと記されています。『日本書紀』には、10 代崇神天皇が派遣した四道将軍の一人として丹波道主命を丹波に遣したとあります。この記事によると丹波道主命は大和出身となりますが、これは地方の首長の祖先を大和朝廷に結びつけたものと考えられ、実際には、丹波の有力な王であったと思われています。

この丹波道主命の娘達（『古事記』では３人、『日本書紀』では５人）は、11 代垂仁天皇の妃となりました。このうち比婆須比売は皇后になったと伝えられており、大和朝廷との強い結びつきがうかがえます。

日本書紀に表れる天皇家と丹後との関係（『丹後王国の世界』より）

門脇禎二氏の「丹後王国論」

和銅６年（713）に、丹波国のうち、加佐郡、与佐（与謝）郡、丹波郡、竹野郡、熊野郡の５郡を割いて、丹後国となりました。それ以前は、後の丹波国、丹後国の両方を併せた広大な範囲が丹波国でした。丹後に巨大な前方後円墳が集中していること、峰山町に丹波という地名が残っていること

丹波　バス停

などから、分国以前は、丹後が丹波国の中心的な場所であったと推測されています。

「丹後王国論」は、昭和58年（1983）に、門脇禎二氏により発表されました。門脇氏は、ヤマト政権によって統一される以前の弥生時代から古墳時代にかけて、市域の峰山盆地を中心として、野田川、竹野川、福田川、川上谷川の各流域を含めた地域に、地域国家が存在していたというものです。門脇氏は、地域国家の成立条件として、①地域における王権とその支配体制があること②定められた支配領域があること③独自の文化や支配イデオロギーがあることの３点をあげました。その上で、古代日本にいくつか存在した地域国家の一つとして丹後王国（丹波王国）が存在したと考えました。「丹後王国論」は、その後の研究のみならず、地域振興や観光にも大きな影響を与えました。

門脇禎二「丹後王国論序説」が掲載された『丹後半島学術調査報告』

3－2. 古代

寺院の建立（飛鳥時代～奈良時代）

当時の都があった藤原宮・平城宮から出土した木簡には、飛鳥から奈良時代に丹後から税として米や海産物が納められたことが記されます。また、こくばら野遺跡（久美浜町浦明）などの調査では、奈良時代に入ると竪穴住居から掘立柱建物へ変化することがわかっています。

俵野廃寺（網野町俵野）は、７世紀後半に造られた市域で唯一の古代寺院跡です。俵野川改修工事により、塔の礎石や、鬼瓦などが出土しました。見つかった土器から、平安時代まで営まれていたと考えられます。また天平13年（741）、聖武天皇は国分寺建立の詔を出し、各国に国分寺・国分尼寺が建立されました。丹後国分寺は、丹後国府の推定地に近い宮津市国分に建立されたと考えられています。

俵野廃寺　塔の礎石

平城宮木簡（レプリカ）

渤海使～朝鮮半島との交流（平安時代）

中国東北部に大祚栄が建国した渤海（698～926年）は、滅亡までの200年間に34回、我が国に渤海使を派遣しています。延長７年（929）、渤海滅亡後の東丹国の一行が、丹後国竹野郡大津浜に到着しました。しかし朝廷は使節団の都入りを許可せず、そのまま東丹国に帰らせたという記録があります。古代には潟湖であったと思われ、港の役割を果たしていた離湖（網野町小浜など）の東岸に横枕遺跡（網野町島津）があります。この遺跡からは、平安時代の釉薬を塗った陶器類や、当時貴重であった中国製の磁器などが見

離湖と横枕遺跡（公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター提供）

つかっています。横枕遺跡は、使節団が滞在した客館跡の可能性が指摘されています。

密教系寺院と経塚造営（平安時代）

平安時代に入ると、本市の各地で寺院が開かれ、特に密教系の山林寺院が多く存在しました。善無畏三蔵が開いたと伝え、10 世紀に造られた木造千手観音立像を本尊とする縁城寺（峰山町橋木）、天応元年（781）、隠岐島から来た明法上人の草創と伝え、12 世紀の木造観世音菩薩立像を本尊とする上山寺（丹後町）、同じく 12 世紀の木造薬師如来及び両脇侍像を本尊とする円頓寺（久美浜町円頓寺）や成願寺（丹後町成願寺）、現在はメトロポリタン美術館（アメリカ）が所蔵する金銅蔵王権現像があったと伝える迎接寺（現在は久美浜町大向の遍照寺）などがあります。

また平安時代中期に流行した末法思想は、経典を土中に埋め、後世に伝えようとする経塚の流行につながりました。市域では、嘉応２年（1170）の銘文を持つ銅板製の経筒が出土した山の神一号経塚（久美浜町円頓寺）が最も古いものです。その後、市域では 14 世紀にかけて経塚が造られます。

縁城寺　木造千手観音立像

成願寺　木造薬師如来坐像　両脇侍像

３－３. 中世

荘園制と寺社

中世の土地制度の一つに、10 世紀以降に成立した荘園制があります。鎌倉時代から室町時代にかけて丹後国内にあった郷・保・荘園などは、長禄３年（1459）の「丹後国諸庄郷保惣田数帳（田数帳）」に記されています。丹後国の荘園は、加佐郡６荘、与謝郡６荘、丹波郡２荘、竹野郡５荘、熊野郡６荘の計 25 荘あります。このうち、市域には 13 ヶ所の荘園がありました。「田数帳」に記された荘園は、地理的に近い京都・奈良などの寺社領として始まりますが、鎌倉時代から室町時代にかけて武士が台頭したこともあり、武家領が増えていきます。

京都・奈良などの寺社の荘園であった名残は、市内各地に残る寺社に見ることができます。例えば、木津荘の加茂神社（網野町木津）は下鴨神社（京都市）、鹿野荘の鹿野八幡神社（久美浜町鹿野）・佐野荘の矢田八幡神社（久美浜町佐野）、平荘の平八幡神社（丹後町平）、は、石清水八幡宮（八幡市）の荘園であった時代に祀られたと考えられます。

本願寺（久美浜町十楽）は、後白河法皇の持仏堂の長講

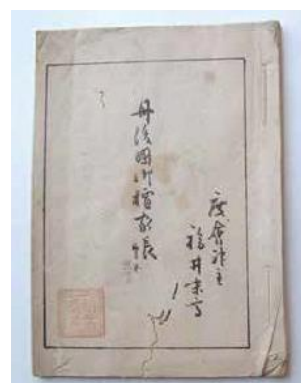
山の神１号経塚　銅製経筒（円頓寺所蔵）

平八幡神社

堂領（京都市東山区）であった久美荘にある浄土宗の寺院です。本願寺文書には、後白河法皇の五七日供養を行ったという言い伝えが記され、本尊の木造阿弥陀如来立像はその時に造られたとされます。また当時のようすを伝える鎌倉時代後期の本堂があります。

本願寺木造阿弥陀如来立像

南北朝時代から戦国時代へ

元弘３年（1333）、鎌倉幕府が滅ぶと、京都の北朝と吉野の南朝が対立する南北朝時代となりました。幕府滅亡時の丹後では、後醍醐天皇の命で熊谷直経が、熊野郡の浦家（浦明）、浦富保、竹野郡の木津郷、木津荘、船木荘、丹波郡の丹波郷、光安保、善王寺の城を焼きはらっています（「熊谷直経代直久軍忠状」）。南北朝動乱期には、すでに丹後各地に城があったことがわかります。

建武３年（1336）、足利尊氏は、一色範光を丹後国守護に任命しました。一色氏は、応仁の乱後、丹後府中（宮津市府中）に守護所を置きました。その後、一色氏は内紛を起こし、それに乗じて、若狭国（福井県）の武田氏が何度も丹後国を攻めています。永正 14 年（1517）には、丹後府中から吉沢城（弥栄町吉沢）や堤籠屋城（弥栄町堤）へ武田氏が侵攻し、合戦が行われました。

稲葉家本「丹後国御檀家帳」

天文７年（1538）の「丹後国御檀家帳」には、丹後守護・一色氏を頂点に「国の御奉行」と呼ばれた石川氏（加悦）、伊賀氏（久美浜）、小倉氏（宮津）、「国のおとな衆」井上氏が守護のもとにあり、さらに各地に城持ちの城主が点在していたことが記されています。また山林寺院の雄坂寺（網野町尾坂）は、「大なる城主也」と記され、武装した寺院があったことがわかります。

シミズ谷城跡（公益財団法人
京都府埋蔵文化財調査研究センター提供）

このように南北朝時代から戦国時代には、市域に多くの山城が築かれました。若狭武田氏との合戦の舞台となった堤籠屋城の近くに立地するシミズ谷城跡（弥栄町堤）では、掘立柱建物跡、鍛冶炉などがあり、瀬戸焼、美濃焼、青磁椀などの陶磁器、土師器などが見つかっています。また下岡城跡（網野町下岡）は、郭、井戸、竪堀などの遺構がよく残り、戦国時代の山城のようすがよくわかる遺跡です。

信仰の展開

鎌倉時代から室町時代にかけて、市域には、さまざまな信仰の展開が見られました。

時宗の開祖一遍上人は、弘安８年（1285）に「丹後の久

安楽寺八角石塔

美の浜」で踊り念仏を行い、龍があらわれたと伝えています。その後の時宗は、熊野郡に浦明道場があったという記録が残るほか、室町時代の八幡神社（丹後町平）鰐口や安楽寺（丹後町此代）の八角石塔などが残っています。

禅宗では、永享４年（1432）に千畝周竹が臨済宗寺院として再興した常喜院（久美浜町新町）が知られています。

また戦国時代になると、生前に死後の供養を行う逆修という風習が盛んに行われ、市域には多くの供養塔が建てられました。代表的なものには、福昌寺（弥栄町黒部）境内にある享禄４年（1531）の十三仏石塔や、永禄７年（1564）の立石大逆修塔（大宮町森本）などがあります。この時期のお墓には、水戸谷遺跡（大宮町三重）のように、火葬後の骨を納めた上に石で作った五輪塔や板碑を建てたものが見つかっています。

福昌寺十三仏石塔

水戸谷遺跡

３−４. 近世

細川藤孝・忠興の丹後支配

天正７年（1579）、織田信長は明智光秀、細川藤孝・忠興親子に丹波丹後の平定を命じます。明智光秀は、丹波を支配し、細川藤孝・忠興は一年がかりで丹後守護の一色氏を支配下に置きました。天正８年（1580）には、細川氏は宮津城の築城に取り掛かり、城下町の建設も行われました。

天正 10 年（1582）の本能寺の変で、明智光秀が織田信長を討ったのち、光秀は細川藤孝・忠興に味方になるよう求めましたが、藤孝はこれを断り、幽斎と名を改めて隠居し、家督を忠興に譲って舞鶴の田辺城に移りました。この時、忠興は、明智光秀の娘であった妻・玉子（ガラシャ夫人）を、弥栄町味土野の山中に幽閉したと伝えています。その後、細川氏は、一色氏を滅ぼし、約 20 年間にわたって丹後を支配しました。幽斎は、和歌、能や文芸に秀でており、当時の一流の文化人でした。

細川ガラシャ夫人隠棲地に建つ石碑

松井康之の久美浜支配

松井康之は、細川藤孝の重臣です。康之は、松倉城（久美浜町西本町）に入り、ふもとの久美浜を城下町として整備しました。また叔父の玄圃霊三を招いて常喜院を再興し、宗雲寺と改め、父正之と母法寿の墓を移しました。康之は、豊臣秀吉の鳥取城（鳥取県）の戦や、文禄２年（1593）の朝鮮出兵にも参加し活躍しています。関ケ原の合戦時の康之は、細川家の領地があった豊後杵築城（大分県）にあっ

絹本著色松井康之像（宗雲寺所蔵）

て、九州の西軍と戦いました。康之は、藤孝・忠興同様に、茶道や文芸に秀でており、茶道は千利休に学んでいました。

京極高通像（常立寺所蔵）

京極氏と峰山藩

細川氏の豊前中津（大分県）に国替え後、丹後を治めたのは、外様大名の京極高知です。京極氏は、室町幕府の要職を務めた大名として知られています。高知は、慶長７年（1602）に、所領である丹後全域にわたる検地を実施し、支配の基礎を固めました。元和８年（1622）、京極高知の死後、遺言により高知の三人の子が分割して相続することとなり、宮津藩を高広、田辺藩を高三、峰山（峯山）藩を高通が統治することになりました。

常立寺

峰山藩は、その後、明治４年（1871）の廃藩置県まで、12代 250 年間にわたって、京極氏が治めました。京極氏の菩提寺であった常立寺には、歴代藩主の肖像画と墓所が残されています。

峰山藩は、１万石の小さな藩であったものの、３人の藩主が江戸幕府の若年寄を務めるなど、譜代大名並みの扱いでした、また宮津藩領、久美浜代官所領と比較すると、峰山藩では百姓一揆が一度もなかったことが注目されます。これは小さな藩ゆえに管理が行き届き、領民にとって良い政治が行われていたためと考えられています。

森田治郎兵衛の墓（常立寺）

京極氏は、丹後ちりめんを扱う問屋を選定するなど、丹後ちりめんの保護策を採り、振興を図りました。丹後ちりめんは、４代藩主高之の時代、享保５年（1720）に、絹屋佐平治が京都の西陣から、ちりめんの技術を峰山に持ち帰ったことに始まります。佐平治は、後に名を森田治郎兵衛と改め、「丹後ちりめん」の始祖として讃えられ、その墓は常立寺にあります。その後、ちりめん産業は、歴代藩主のもとで発展を遂げ、丹後全体に富と活気をもたらしました。

また４代高之は、博学多才であり、書画・木工・陶芸の作品が伝えられています。７代高備の時代には、讃岐（香川県）の金毘羅権現を峰山に分祀し、金刀比羅神社が創建されたと伝えています。

久美浜代官所があったことを伝える陣屋橋

天領と久美浜代官所

熊野郡は、寛文６年（1666）以降、幕府の直轄領（天領）となりました。これは、熊野郡を領地としていた宮津藩が、藩主・京極高国父子との不和と領内農民への悪政を理由に、領地を没収されたことによります。その後、但馬の生野代官

所の支配下に置かれたのち、湊宮に「船見番所」が設けられ、享保20年（1735）に、代官所は久美浜に移されました。

　現在の久美浜小学校は、かつて代官所のあった場所です。寛政11年（1799）の「丹後但馬美作国村々新高帳」によると、久美浜代官所の支配地は、丹後、但馬の227ヶ村に及び、一時は美作国（岡山県）にも支配地がありました。年貢は米と銀で納められ、米は間人、浜詰、久美浜などの蔵に集められました。その後、旭湊（久美浜町蒲井）などから千石船で江戸や大坂に送られ、銀は陸路で大阪へ送られました。丹後の米は、江戸の台所を支えていました。

　代官所は、支配地の広さに比べ役人の数が少なかったため、支配下の村々の代表者である郡中代や、いくつかの村の庄屋の代表者の組合惣代、庄屋などの村役人、代官所の公金を預かる掛屋などがおかれました。なお郡中代は、久美浜村の庄屋が勤めました。

　久美浜の稲葉家（稲葉本家）は、代官所の掛屋をつとめた家です。土地集積により財をなし、出石藩（兵庫県）などの掛屋もつとめました。離れ座敷の吟松舎には、大名や幕府役人のほか、文人・墨客が訪れました。

旭湊

稲葉家住宅

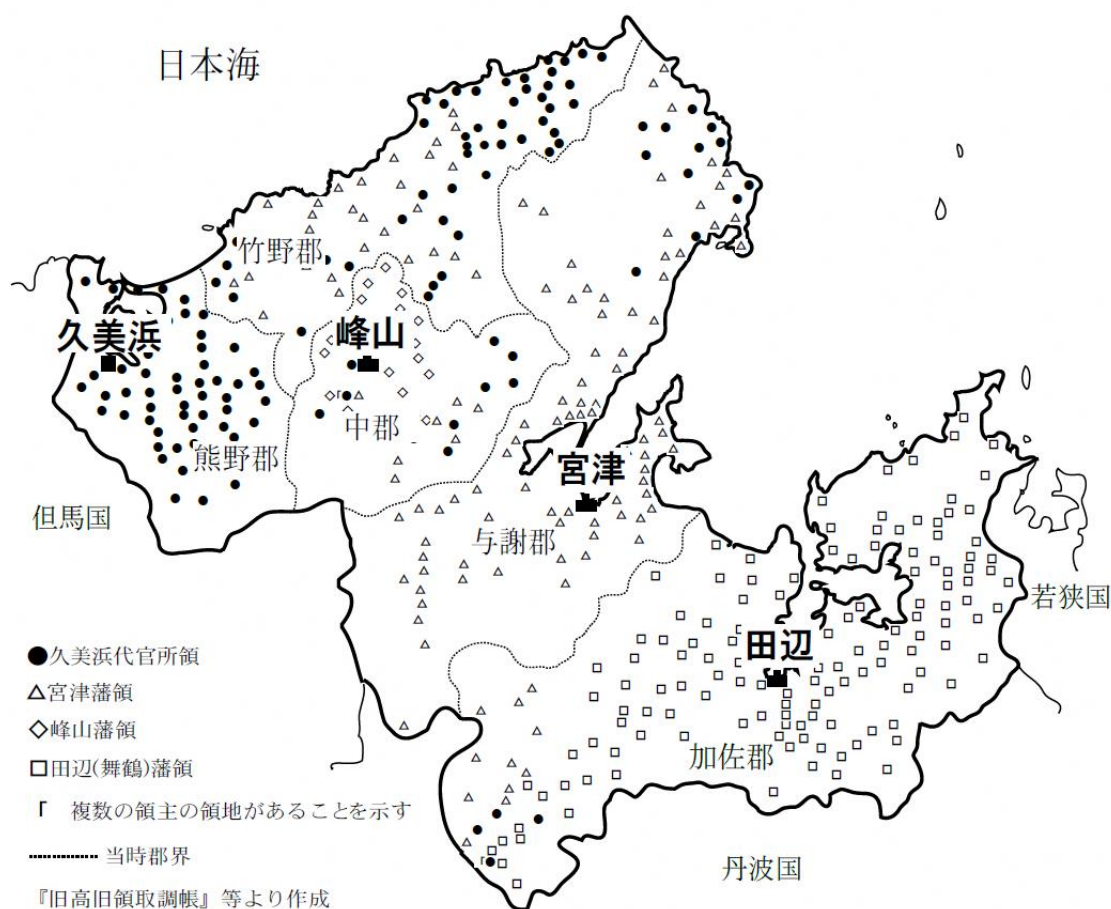



図1-31　江戸時代末期の丹後国領主別領地村配置図（『図説京丹後市の歴史』p78より）

北前船の寄港地としての発展

鉄道が開通する以前の時代、大量の貨物の輸送には、船が最も有効な手段でした。江戸時代、日本海沿岸には北前船の航路が開かれ、各地の産物が運搬、取引されていました。

市域では、間人（丹後町）、浅茂川（網野町）、湊宮（久美浜町）が北前船の寄港地として発展しました。湊宮の「五軒家」は、廻船業の他に両替商、酒造業などを行っていた豪商で、本座屋、新シ屋、下屋、木下家、五宝家のことです。五軒家は、天正期（1573～1592 年）から江戸時代前期に最も栄えたと伝えています。その後、延享３年（1746）の湊宮村の明細帳には、850石積から 420 石積の船 19艘があったことが記されています。しかし幕末になると船は小さくなり、弘化２年（1845）には、船は 16 艘、最大で 150 石積と記されています。五軒家に関する史跡としては、五軒家の一つ小西伯熙の建てた大石塔のほか、天明の飢饉の時に、粥の炊き出しを受け取るため五軒屋を目指しながらも途中で力尽きた人々の供養に建てられた群霊暴骨墓があります。

間人には、船荷問屋として但馬屋、加賀屋、因幡屋がありました。加賀屋には、宝暦年代（1751～1764 年）から明治時代までの客船帳が残っており、北海道から九州まで、加賀屋と取引があった船名が記録されています。

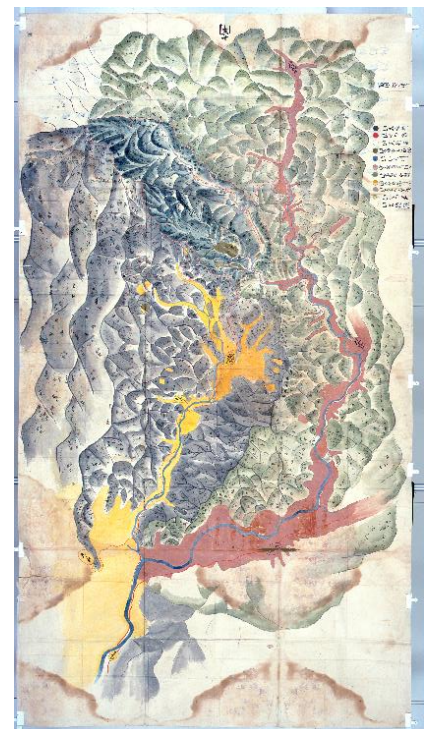
北前船を模した奉納和船
（蛭児神社所蔵）

加賀屋客船帳（個人所蔵）

昭和初期の間人漁港

村のようすと信仰

江戸時代の農村は、「村」を単位に営まれていました。村のようすは、村明細帳などの史料に記録されており、農村の場合は、職人の家が若干あるものの、村の大半は農業に従事していたようです。農地には、水田、畑があり、水田には用水が欠かせないものでした。水田の肥料には柴草を中心に干鰯や油粕、畑の肥料には柴草、灰のほか、農業に従事した牛などの肥を使っていたようです。山は、肥料として用いた柴草のほか、薪などの燃料を得るために重要なものでした。そのため、村同士で用水や山争いが起こり、代官所や藩主のもとへ訴えることもありました。争論では、現地のようすを描いた絵図が作られることもありました。

村では、信仰の中心として神社が祀られ、本殿や鳥居などが造られました。秋祭りには、収穫に感謝する祭礼行事などが行われました。現在に伝わる神社や民俗芸能は、大半が江戸時代にさかのぼるものです。また江戸時代の村人は、寺院の檀家でもありました。現在に残る寺院の大半は、江戸時代にさかのぼるものです。

瀧谷山争論絵図

4－5. 近現代

明治維新と丹後

幕末になると日本海沿岸の諸藩は、外国船に対して警戒を強めていました。宮津藩では、海防警備のために砲台を設置し、峠には胸壁（とりで）を設けました。市域では大内峠に胸壁がありました。慶応２年（1866）、幕府は第二次長州征討を行い、当時老中であった宮津藩主・本庄宗秀は先鋒副総督を務め、若年寄であった峰山藩主・京極高富は四国征長諸軍の取り締まりに当たりました。しかし長州征討は失敗し、幕府の権威は失墜します。慶応３年（1867）、第15代将軍・徳川慶喜は大政奉還を行いました。次いで「王政復古の大号令」が出され、明治新政府が誕生しました。

京極高富像（金刀比羅神社所蔵）

当時、丹波・丹後にあった亀山（亀岡）、篠山、福知山、田辺（舞鶴）、宮津などの藩主たちは、すべて幕府に近い大名でした。慶応４年（1868）、新政府は山陰道の鎮撫総督として西園寺公望を任命しました。西園寺は、京都を出発してからおよそ20日間で、これら諸藩を服属させました。なお西園寺は、久美浜代官所へ入る前に稲葉本家の吟松舎で昼食をとっています。久美浜代官所領は、久美浜県となりました。久美浜県は、明治２年（1869）に府下で最も早い小学校建設に関する令達を発しています。翌３年（1870）には、長明寺（久美浜町土居）に久美浜県小学校が置かれました。

長明寺に立つ
久美浜県小学校発祥の地石碑

廃藩置県から、豊岡県、京都府へ

明治新政府は、様々な制度改正、改革を行いました。明治４年（1871）７月には、廃藩置県がおこなわれ、丹後は宮津、舞鶴、峰山、久美浜の４県となりました。この中で久美浜県の範囲は、丹後・丹波・但馬・播磨・美作の５カ国にわたる広域なもので、県庁は久美浜代官所のあった場所に建築されました。同年11月には、全国３府72県に統合され、丹後は、但馬および丹波のうち天田・氷上・多紀の３郡とともに豊岡県となりました。その後、明治９年（1876）８月には、豊岡県が廃止され、丹後、丹波は京都府に編入され、現在に至っています。明治時代前期には、地券交付、地租改正といった土地制度や、戸籍制度などがはじまり、現在に引き継がれているものも多くみられます。

久美浜県庁の正門（兵庫県豊岡市）

なお久美浜県庁の建物は、解体・移築した上で豊岡県庁（兵庫県豊岡市）として使用された後、大正12年（1923）に神谷神社境内へ玄関棟が移され、参考館として残っています。

参考館（久美浜県庁舎玄関棟）

難航した鉄道敷設

明治20年代、ロシアでシベリア鉄道が造られると、日本海に面した丹後では、宮津－ウラジオストック（ロシア）間の貿易を試みました。しかし日清・日露戦争による朝鮮半島情勢の変化や、宮津から京阪神への鉄道が完成していなかったこともあり、失敗に終わります。

京都－舞鶴間の鉄道計画は、明治27年（1894）、京都鉄道株式会社の事業に国の認可が下りました。これを受け丹後各地の有力者は、宮津－城崎間の鉄道敷設を目指す丹後鉄道株式会社を設立しました。しかし日清戦争後の明治32年(1899)、京都鉄道株式会社は京都－園部間を開通させたものの、さらなる延伸に行き詰まり、丹後鉄道株式会社も解散しました。一方、間人（丹後町）出身で大阪財界の雄であった松本重太郎が関わった阪鶴鉄道株式会社は、明治32年に大阪－福知山間の鉄道を開通しました。その後、日露戦争による情勢の緊迫により、日本海側に唯一置かれた舞鶴鎮守府と京阪神を鉄道で結ぶ必要があったため、明治37年（1904）11月、政府により福知山－綾部－舞鶴間の鉄道が開通しました。

その後、市域の鉄道建設は、大正７年（1918）の舞鶴－峰山間の着工でようやく実現し、大正14年に峰山駅、口大野駅（現在の京丹後大宮駅）が開業しました。峰山－豊岡間は、大正15年（1926）に峰山－網野間、昭和４年（1929）に豊岡－久美浜間、同６年に網野－丹後木津間（現在の夕日ヶ浦木津温泉駅）、同７年に丹後木津－久美浜間が開通、ようやく全通しました。

丹後小学校に立つ松本重太郎像

峰山線開通記念絵葉書(峰山駅)

生活の近代化

丹後の電気事業は、日露戦争後に本格化しました。明治45年（1912）６月に両丹電気株式会社が発足し、同年９月には峰山町に初めて電気が通りました。翌大正２年（1913）に発足した豊岡電気株式会社は、丹後へも事業区域を拡大し、大正４年に網野町に電気が通りました。大正６年（1917）には、両丹電気と豊岡電気が合併し三丹電気株式会社となり、大正時代末には市域のほとんどの地域に電気が通りました。この間、大正９年（1920）には、水力発電の小脇発電所（丹後町）が送電を開始し、現在も稼働しています。

医療では、コレラなどの伝染病予防が大きな課題でした。明治22年（1889）の町村制施行とともに、各町村では伝染病隔離病舎の建設が進みました。一方、明治前期までの医師は、幕末の蘭方医療による開業医が中心でした。その後、日清戦争後には、大学、高等学校、専門学校卒業の医師が増加し、医療の近代化が進みました。

小脇発電所

久美浜町伝染病隔離病舎
（稲葉家写真 B658）

日清・日露戦争、第1次世界大戦による社会の変容

明治 22 年（1889）の改正徴兵令は、例外はあるものの国民皆兵に近づくものでした。各町村役場には「兵事」が業務として加わることとなりました。

日清・日露戦争では、市域からの従軍者があり、日露戦争では戦死者も出ました。市域各地には、明治三十七八年役記念碑や征露記念の奉納品、軍事郵便などの資料が残っています。明治 43 年（1910）には、在郷軍人の親睦と団結のため在郷軍人会が発足し、町村単位で分会が組織され、軍の監督を受けました。大正２年（1913）に第一次世界大戦が勃発すると、市域の経済面では、織物業を中心に好況を迎えましたが、その後、大正９年（1920）から始まる戦後恐慌で不況に陥りました。

大正 15 年（1926）からは、町村ごとに 16 歳以上の勤労男子に軍事教練をほどこす青年訓練所が設置され、忠魂碑が一斉に建設されるなど、軍隊を起点とした地域の軍事的結合がゆるやかに進行することとなりました。

征露記念猿石碑（日吉神社）

忠魂碑

丹後震災からの復興

昭和２年（1927）３月７日、北丹後地震（丹後震災）が発生しました。この地震による死者は 2,925 人、全壊家屋 12,584 棟、全焼家屋6,459 棟という甚大なものでした。最も被害が大きかったのは峰山町で、当時の市街地の 90％以上が焼失しました。

この地震の震源となった断層は、郷村断層帯と山田断層帯でした。郷村断層は、丹後半島を北北西から南南東に縦断する約 18 kmの断層です。山田断層は、東北東から西南西方向に伸びる約７kmの断層です。地震発生直後から、当時の地震学者による現地調査が行われ、郷村断層のうち、学術的に価値があるとされた３地点は、天然記念物として保存されました。

震災発生直後の負傷者の救護、救援物資の補給、倒壊家屋の片づけ、バラック（仮設住宅）の建設といった救護活動には、各地から支援の手が差し伸べられました。救護活動は約１ヶ月で区切りを迎え、被災地は復興に向けて進むこととなりました。

住宅や産業の復興には、資金融資がありましたが、被災した人々には重い負担となりました。それでも融資をもとにちりめん業などの産業や住宅の復興が進められ、被災地は速やかな復興が果たされました。

震災直後の峰山町

（『丹後但馬震災画報』より）

復興の途上にある峰山町

（『丹後但馬震災画報』より）

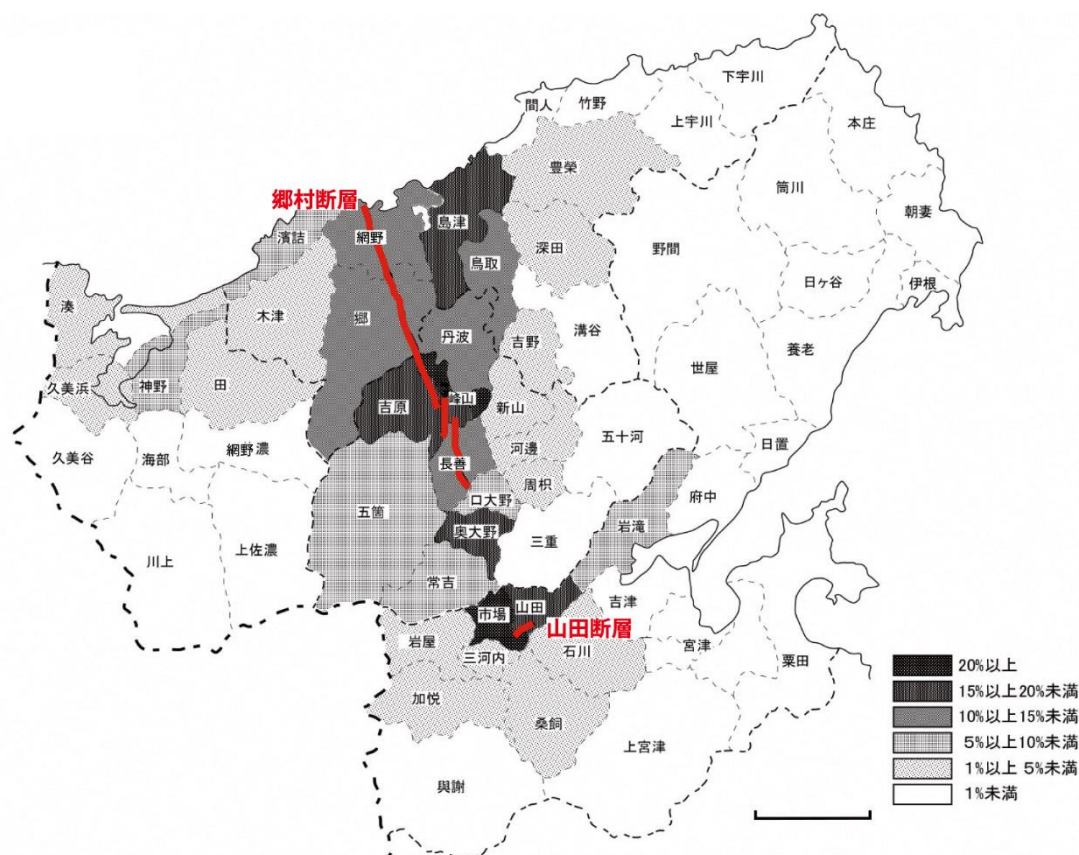



図 1-32 丹後震災による町村ごとの死傷者率の分布（『京丹後市の災害』p133 より、断層名を追記）

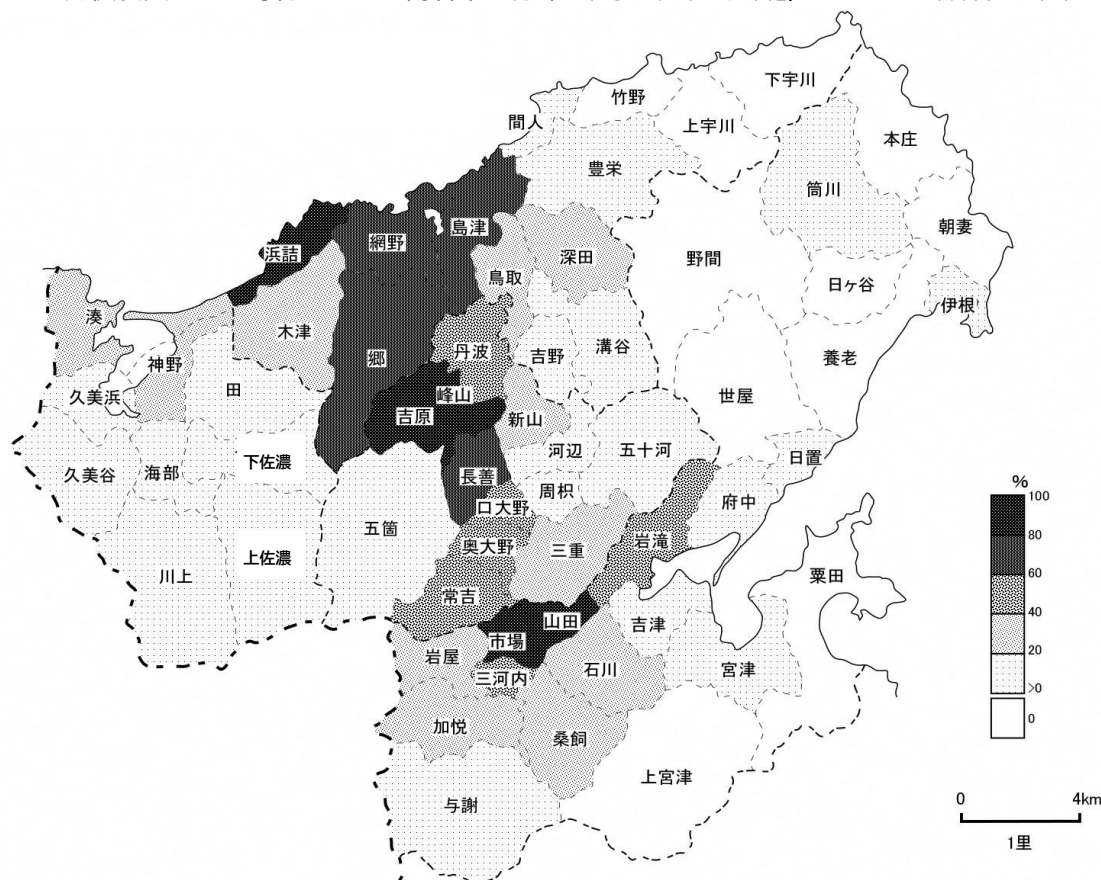



図 1-33 丹後震災による町村ごとの死傷者率の分布（『京丹後市の災害』p134 より）

表 1-7 京丹後市(丹後半島西部山地)における廃村集落の状況

集落番号	集落名	所在地	集落の標高※1	集落の地形※2	明治期の戸数	全面廃村化の時期	備考
1	山内	久美浜町	150	中腹崩壊斜面	11	昭和 43 年	
2	日和田	網野町	140	中腹崩壊斜面	34	昭和 40 年	4 戸新規転入
3	尾坂	網野町	180	谷頂	12？	昭和 36 年	
4	大河内	大宮町	160	谷頭	4	昭和 18 年	
5	奥車谷	大宮町	180	谷頭	5？	昭和 28 年	

表 1-8 京丹後市(丹後半島東部山地)における廃村集落の状況

集落番号	集落名	所在地	集落の標高※1	集落の地形※2	明治期の戸数	全面廃村化の時期	備考
6	小脇	丹後町	120	中腹浸食斜面	13	平成元年	
7	川久保	弥栄町	90	谷中	7	昭和56年より冬無住	
8	三山	丹後町	120	谷頭	35	昭和 50 年	集団離村
9	竹久僧	丹後町	200	谷頭	10	昭和 38 年	集団離村
10	乗田原	丹後町	310	谷頂	6	昭和 44 年	三山の端郷
11	碇開拓	丹後町	380	崩壊性高原面	-	昭和 36 年	昭和 23 年 10 戸入植開拓
15	大石畑	弥栄町	600	崩壊性高原面	5？	明治末期頃	須川の端郷
16	住山	弥栄町	500	崩壊性高原面	5	昭和 39 年	須川の端郷
17	熊谷	弥栄町	300	谷頭	2	昭和 37 年	須川の端郷
18	平家	弥栄町	500	山頂浸食斜面	1	昭和 38 年	須川の端郷
19	茶園	弥栄町	440	山頂浸食斜面	2	昭和 38 年	須川の端郷
20	尾崎	弥栄町	560	山頂浸食斜面	2	昭和 38 年	須川の端郷
21	鉄谷	弥栄町	400	谷頭	2	昭和 40 年	同上(黒川の呼称あり)
22	出合	弥栄町	280	谷中	3	昭和 40 年	須川の端郷
26	三舟	弥栄町	320	谷頂	3？	昭和 34 年	藪の端郷
27	小杉	弥栄町	420	山頂浸食斜面	9	昭和 39 年	味土野の端郷、木地屋集落
35	滝谷	大宮町	130	谷頂	4？	大正初期	延利の端郷
36	内山	大宮町	490	崩壊性高原面	16	昭和 45 年	五十河の端郷
37	大谷	大宮町	200	谷頭	11	昭和 40 年	河辺の端郷
38	表山	弥栄町	270	中腹浸食斜面	10	昭和 34 年	吉沢の端郷
39	六谷	弥栄町	220	中腹浸食斜面	4？	昭和 25 年頃	堀越の端郷
40	中尾引	弥栄町	200	中腹浸食斜面	4？	昭和 30 年頃	堀越の端郷
41	箆津	弥栄町	170	中腹浸食斜面	3？	明治 40 年頃	堀越の端郷
42	二股	弥栄町	200	谷頭	2？	明治末年頃	堀越の端郷
43	蓑ヶ供御	弥栄町	280	中腹浸食斜面	4？	明治 40 年頃	堀越の端郷
44	芦谷	弥栄町	430	山頂浸食斜面	3？	明治 40 年頃	堀越の端郷
45	吉津	弥栄町	420	崩壊性高原面	15？	昭和 41 年	明治 10 年大火
46	畑	弥栄町	220	中腹浸食斜面	14？	昭和 44 年	

表 1-8 京丹後市(丹後半島東部山地)における廃村集落の状況

集落番号	集落名	所在地	集落の標高※1	集落の地形※2	明治期の戸数	全面廃村化の時期	備考
47	岩野	弥栄町	350	谷頂	3?	明治末年頃	畑の端郷
48	高原	弥栄町	400	山頂浸食斜面	15	昭和 42 年	等楽寺の端郷
49	栃谷	丹後町	180	谷頭	5	昭和 43 年	
50	一段	丹後町	130	中腹崩壊斜面	50	昭和 45 年	
51	力石	丹後町	240	中腹浸食斜面	31	昭和 49 年	昭和 34 年大火
52	大谷	丹後町	220	中腹浸食斜面	15?	昭和 52 年	永谷の呼称があった
53	神主	丹後町	190	中腹浸食斜面	17	昭和 53 年	

※1:標高は集落空間内の居宅集合地の中央部付近の 1/25000 地形図による
※2:地形図、空中写真の読図ならびに実地調査に基づき類型化したもの
(出典:『丹後地方における廃村の多発現象と立地環境との関係　その1地形的・地質的条件との関係』
坂口慶治(1998):京都教育大学環境教育研究年報第6号、51-82)
※集落番号は、坂口 1998 を使用

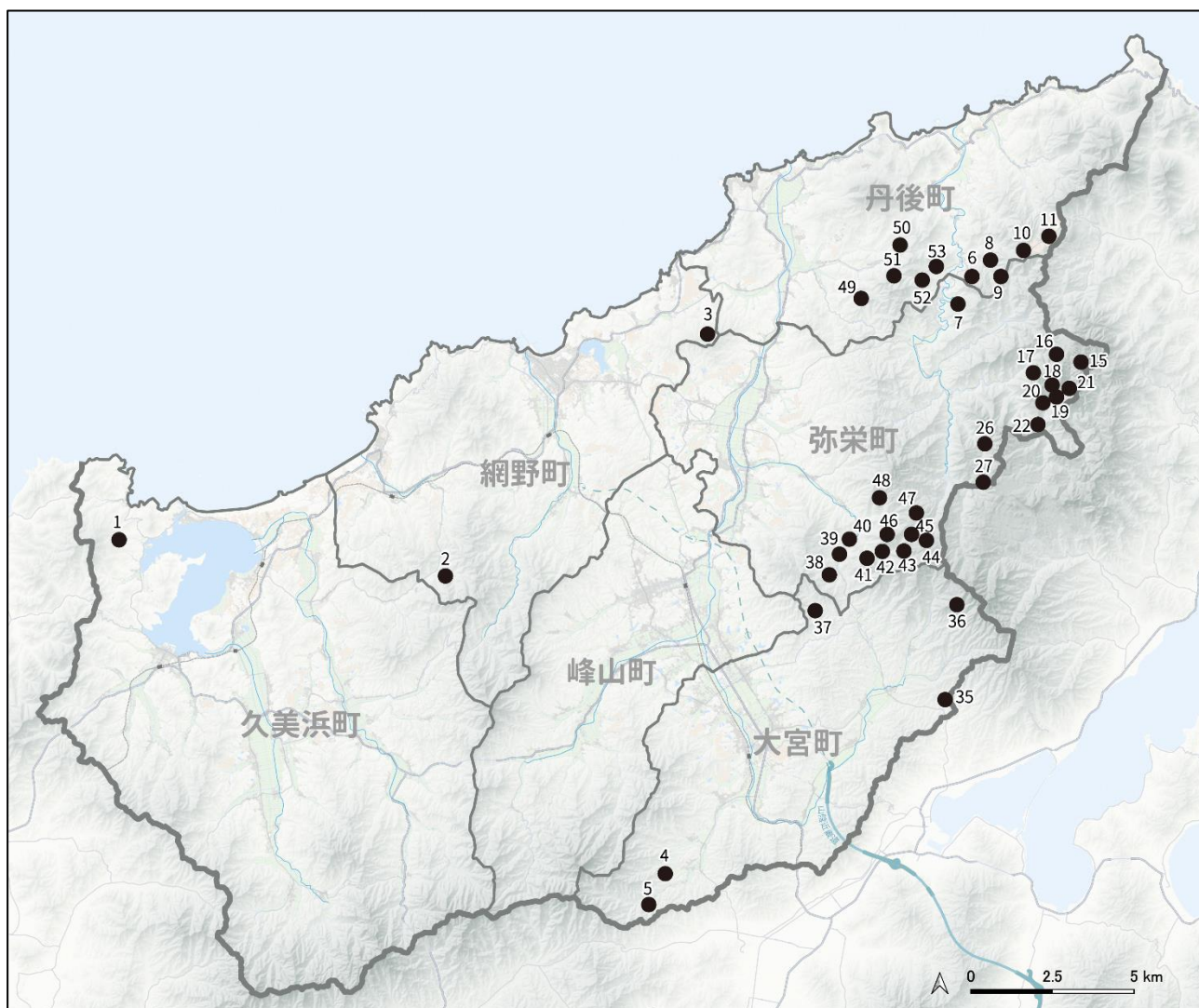



図 1-34　廃村集落の位置

(出典:『丹後地方における廃村の多発現象と立地環境との関係　その1地形的・地質的条件との関係』
坂口慶治(1998):京都教育大学環境教育研究年報第6号、51-82)

また昭和４年（1929）には、震災義援金の残金を用い、京都府が丹後震災記念館（峰山町室）を建設し、震災の記憶を後世に伝えています。

震災1年後の峰山町

総動員体制と丹後

昭和４年（1929）世界恐慌の広がりにより、国内は深刻な経済不況となりました。各町村では、冠婚葬祭や日常の交際費の節約などを申し合わせた生活改善に取り組みました。社会の不安定化の一方、陸軍は昭和６年（1931）に満州事変を起こし、翌年には満州国建国、国際連盟の脱退へと進みました。この間、教化総動員運動や在郷軍人会の活動により、次第に国民は軍事体制に取り込まれていきました。

出兵兵士の見送り

昭和 12 年（1937）に日中戦争が起こると、多くの人々が軍隊に召集され、応召軍人の見送り、出征者への慰問袋の作成、応召家庭への勤労奉仕などが取り組まれました。そして昭和 13 年（1938）には、国家総動員法により一挙に戦時体制に進むこととなりました。昭和 15 年（1940）には大政翼賛会が結成され、町村では隣組単位まで上意下達の全国組織となり、昭和 16 年（1941）の太平洋戦争へと突入していくこととなりました。木津村役場で作られた兵事関係文書には、総動員体制へ進む町村の姿が記録されており、大変貴重な史料です。

峰山海軍航空隊
（峰山海軍航空基地格納庫前）

開戦後、海軍は、対ソ連戦に備えて舞鶴軍港の防空戦闘機の基地となる河辺飛行場を、峰山盆地の河辺から新町にかけて建設しました。その滑走路は約 1.5km、幅 80mにも及ぶもので、格納庫、兵舎、通信基地なども併設されました。昭和 19 年（1944）、第二美保海軍航空隊峰山分遣隊として、峰山海軍航空隊が発足し、兵員数は当初 600 名、昭和 20 年（1945）７月には 1,500 名にも増員されました。同年７月に飛行場は米軍機による爆撃を受け、死傷者を出しています。戦後、飛行場跡地は農地などに変わりました。航空機の格納庫や火薬庫、弾薬庫などが現在も残っています。

現在も残る格納庫

昭和 38 年豪雪と離村

昭和 38 年（1963）１月、日本海側をおそった豪雪は、平野部で３ｍ、山間部では４ｍを超える積雪でした。100 年に一度の豪雪といわれ、現在「三八豪雪」と呼ばれています。

この雪害をきっかけに、明治時代よりみられた山間部に位置する集落の離村が急速に進みました。その数は、表 1-7、1-8 に示すとおり、40 集落に及びます。

38豪雪、家の2階まで積もった雪